

2020年度助成事業 報告書

公益財団法人 日本ライフセービング協会

2021年 3月

子ども達への水辺の安全教育プログラムの推進

1. 教育プログラムの構築/ICT教育用プログラムの開発





～JLA e-Lifesaving～

<https://elearning.jla-lifesaving.or.jp/>



～JLA e-Lifesaving 解説動画～

<https://youtu.be/p8Am1f5xsDc>



31,895ユーザー 265,958 PV(ページビュー) ※2021年3月時点

1893回視聴 ※2021年3月時点



夏休みの課題に



水泳授業の前に



夏のレジャー前に

【はじめに：謝辞】

e-Lifesavingは2020年度のコロナ禍において、各学校で水泳授業が実施されない状況の中、ICT教材として様々な展開の可能性を生み出すことができました。今後もオンラインセミナーによる運用や、水泳授業との連動含め、大いに活用が求められると思います。さらには、これから益々の水辺の活動再開とともに、安全を学び、事故予防に働きかける役割は大きいと考えています。多大なるご支援に対し、衷心より御礼申し上げますとともに、2020年度の制作及び展開について以下の通りご報告申し上げます。



▼PV 265,958
▼ユーザー 31,895



プールの代替授業



教員への研修



学校の全体集会

1, e-Lifesaving に関する情報発信

※2021年3月時点

1-1 YouTube制作、発信

① JLA e-Lifesavingごあいさつ <https://youtu.be/t32cWpiNefk>



214回視聴

② JLA e-Lifesaving 学校編 https://youtu.be/dDVqa1qQp_U



386回視聴

③ JLA e-Lifesaving お家編 <https://youtu.be/wd9T6wAoGHw>



229回視聴

④ JLA e-Lifesaving 友達編 <https://youtu.be/l6xSYF-w6TA>



141回視聴

1, e-Lifesaving に関する情報発信

1-2 PRESS RELEASE

PRESS RELEASE
公益財団法人 日本ライフセービング協会
2020年4月9日

報道・関係者各位

守ろう！いのち 学び合おう！水辺の安全 Swim & Survive

2020年 4月9日
JLA e-Lifesaving サイト オープン
<https://elearning.jla-lifesaving.or.jp/>




パソコン・タブレット端末とネットワーク環境があれば、学校で、自宅で、動画を見たり、クイズに答えて、どこでもWater Safetyが学べます

公益財団法人日本ライフセービング協会（東京都港区浜松町2-1-18 JLA 理事長 入谷拓哉）は、子どもたちが水辺の事故防止の心構えや、安全のための知識と技能を身に付け、楽しく活動できることを願い、この教材を制作しました。「水辺の事故防止に関する心得」などへの実践的理解を深めるような構成となっています。主に学校教育において、電子黒板やPC・タブレット端末等を使用し、主体的・対話的な学びを促すことをねらいとしています。プール活動や水辺活動の事前指導、総合的な学習の時間など、水辺の安全教育に幅広くご利用下さい。

公益財団法人 日本ライフセービング協会
副理事長・ライフセービング教育本部 松本貴行

水辺のどんなところがあぶないのかな？



水の中で体はどうなるのかな？

さみくん

もしもお友達が水に落ちてしまったらどうすればいいのかな？



さくらちゃん

水に入らないで助ける方法があるのかしら？

どうやってライフジャケットを正しく着るのかしら？

制作協力：学研プラス



日本財団助成事業
JLA e-Lifesaving ～Swim&Survive～は子ども達への水辺の安全ICT教育プログラムとして、日本財団（<https://www.nippon-foundation.or.jp/>）の助成により開発されました。



JLAから子ども達に、自分でできる水辺の安全対策を伝えたい
取材お申込・お問い合わせ
日本ライフセービング協会 E-mail: press@jla.or.jp
●4/1現在テレワーク推奨期間につき取材お申し込みはメールでお願いいたします。

水辺の事故ゼロをめざして
日本ライフセービング協会

PRESS RELEASE
公益財団法人 日本ライフセービング協会
2020年4月9日

e-Lifesaving
トップページ

<https://elearning.jla-lifesaving.or.jp/>



プールに入る前の注意事項などをイラストを見ながら事前学習

実技の前に、助かる方法、助ける方法を動画で確認

海でのドラマを見ながら、水辺の危険や、もしもの時の対処を考える

クイズに答えてWater Safetyを学べる

JLAサイト
トップページからもリンクしています <https://jla-lifesaving.or.jp/>



水辺の事故ゼロをめざして
日本ライフセービング協会

1, e-Lifesaving に関する情報発信

1-3 活用促進の根拠を示す要旨

《要旨》 令和2年 夏期における水難の概況

警察庁生活安全局生活安全企画課より抜粋

令和2年夏期(7～8月の2か月間)における水難

- ✓ 発生件数 **504件** (前年対比 **+43件**)
- ✓ 水難者 **616人** (前年対比 **+22人**)
- ✓ うち死者・行方不明者 262人 (前年対比 **+23人**)
 - 海: **114人** ≪ -7 ≫
 - 河川 **112人** ≪ +20 ≫
 - 湖沼池 **11人** ≪ +1 ≫
 - 用水路 **20人** ≪ +11 ≫
 - プール **2人** ≪ -3 ≫ / その他 **3人** ≪ +1 ≫ ※



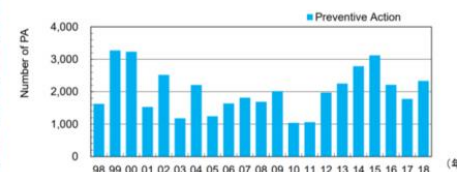
このうち、中学生以下の子どもは

- ✓ 発生件数 **※ 60件** ※子どもの水難発生件数は、水難者が子どものみの場合。
- ✓ 水難者 **101人** うち死者・行方不明者 **16人** (前年対比 **+2人**)

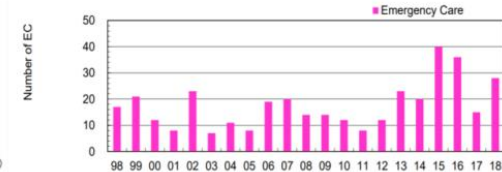
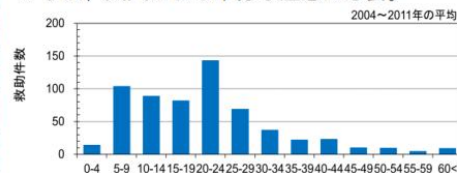
過去5年間の夏期における水難発生状況をみると、発生件数、水難者数とも平成28年を境に減少していたが、**今年は増加に転じた。**

→来夏に向けた『溺水事故予防の具体的な発信、WS教育が必要』

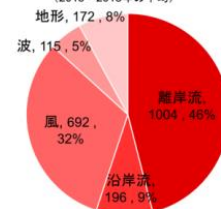
ライフセーバーによる救助の実態 ≪年間2,000～3,000人≫



海水浴場における年齢別の救助人数によると、20歳から24歳が一番多い。**小学生の年齢期から非常に増える傾向がある。**水に慣れてきた頃からは、大人による十分な注意が必要。



レスキューの自然的要因
(2013～2018年の平均)



レスキューの人的要因
(2013～2018年の平均)



「知識」の理解を基に「技能」を身に付け、
「技能」を身に付けることで一層のその「理解」を深める

e-Lifesaving



e-Lifesaving

命を守り合うための学び
～自助、共助～



ICTの活用によって「主体的・対話的な深い学び」を目指すアクティブ・ラーニングも可能

1, e-Lifesaving に関する情報発信

1-5 教育機関への周知①【文部科学省】



動画等

- [おうちで学ぼう！NHK for School\(NHK\)](#)
スマートフォン向けアプリあり
- [京都教育大学公式YouTube kyokyochannel](#)

- ・[長野県教育委員会](#)
- ・[群馬県教育委員会](#)
- ・[世田谷区教育委員会](#)

○[守ろう！いのち 学び合おう！水辺の安全\(公益財団法人日本ライフセービング協会\)](#) NEW

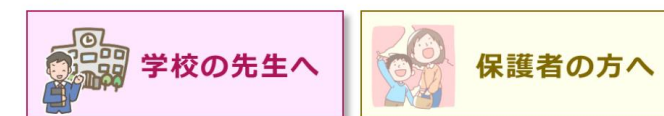
ワークシート等

- 多様な動きをつくる運動(遊び)パンフレット(文部科学省) [1\(PDF:1386KB\)](#) [2\(PDF:1408KB\)](#)
- [わたしの健康\(小学校5年生用\)\(文部科学省\)](#)
- [朝日新聞 放課後のしーと](#)
東京学芸大学との共同研究から生まれた低学年むけのあそびのプリントです。大人ガイドがついて、ジャンルが揃っています。
- [神奈川県教育委員会](#)

学校の教科等を学ぶ



学校の先生・保護者が使えるリンク集



小学校 各教科等

教科(きょうか)を えらびましょう



中学校 各教科等

教科等を選びましょう



1, e-Lifesaving に関する情報発信

1-5 教育機関への周知②

2020 SUMMER 神奈川の海での遊泳はひかえましょう

どこでも・いつでも・だれでも学べる

ライフセービング

e-ライフセービング
学校の先生方へ
<https://elearning.jla.lifesaving.or.jp/>

小学校・中学校の新学習指導要領に追い「水泳運動の心得」や「安全確保につながる運動」、「水辺の事故防止に関する心得」などを実践的理解を深められるように構成されています。

主に学校教育において、電子黒板やPC・タブレット端末等を使用し、主体的・対話的な学びを促すことをねらいとしています。プール活動や体験活動の事前指導、総合的な学習の時間など、水辺の安全教育に幅広くご利用下さい。

ライフセービングからた
保護者の皆さまへ
<https://jla-lifesaving.or.jp/news/678/>

水辺に関する安全について、子どもたちに伝えたい内容の一部をカルタにしました。それぞれの札に関連する知識を大人と子どもと一緒に遊びながら伝えることで、より深い学びになります。カラフルでかわいらしいイラストのカルタで楽しく遊びながら、水辺に関する安全について学んでください。WEB サイトからダウンロードして作成いただけます。

公認財団法人日本ライフセービング協会
〒105-0013 東京都港区赤坂2-1-18 トラピスビル
TEL: 03-3459-1445 (平日 12:00-18:00) info@jla.jp

特定非営利活動法人神奈川県ライフセービング協会
〒251-0038 神奈川県横浜市中区磯子区岡崎3-17-1
TEL: 0466-60-2212 <http://lifesaving.na.jp/>

神奈川県の
ライフセービングについて

土警協 川口川下水源地域防衛課
なぎさグループ

このリーフレットは水辺の事故防止に向けて神奈川県と公認財団法人日本ライフセービング協会が作成しました。 2020年7月



1893回視聴

※2021年3月時点

一般財団法人東京私立中学教育研究所
東京私学教育研究所

企画運営 研究研修 ENHANCED BY Google

研究研修情報 最新情報 研究所だより 集録 指導講師派遣 東京私学教育研究所とは

10/9(金)実施 保体「研修会」-ICTを活用した水辺の安全教育と、コロナ禍におけるBLS教育の在り方-

2020-09-03

— 申込受付は締め切りました —

芸術体育系教科研究会（保健体育）「研修会」のご案内

～ICTを活用した水辺の安全教育と、コロナ禍におけるBLS教育の在り方～

初秋の候 先生方におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

今夏における水の事故は、コロナ禍における様々な要因から、残念ながら増加傾向にありました。

各学校におかれましても、十分な水泳授業が実施できない状況にあったのではないのでしょうか。生徒の健康や安全を確保する上で、水泳運動の心得や、水辺の事故防止に関する知識と技能を身に付けさせることは、学習指導要領にも明示されています。水泳授業はそれに最も関わりが深い分野ですが、総合的な学習の時間や道徳、特別活動などにおいても、水辺の安全を伝えることは有効です。来夏に向け、どなたでも生徒とともに実践的な水辺の安全を考え、学ぶことのできる無料のICT教材（制作：日本ライフセービング協会、制作協力：学研みらい）を用いた学習方法を紹介します。

さらには例年実施している心肺蘇生の内容も踏まえ、今回は『コロナ禍におけるBLS（一次救命処置）教育の在り方』についてご説明致します。

どの教科の先生方にも広くご参加いただける内容になると存じます。感染防止の観点に加え、新型コロナウイルスへの対応により、負担が増している教育現場にある先生方にとっても、移動の不便なくご参加いただけるよう今回はオンラインでの実施と致しました。初任者の方も含め、多くの先生方のご参加をお待ちしております。

記

1. 日 時 令和2年10月9日（金）17:00～18:30（ログイン受付16:45～）

2. 会 場 オンライン Zoomミーティングにて実施

3. 内 容

① ICTを活用した水辺の安全講習（40分）

② コロナにおけるBLS教育の在り方（40分）

※途中5分休憩あり。いずれも質疑応答含む。

4. 講 師 松本 貴行

1、神奈川県との包括協定 ※右図チラシ配布

- ✓ 県下小学校 855校
- ✓ 県下中学校 410校

2、教員や指導員へ向けた研修動画配信

- ✓ 全国の47都道府県教育委員会へ

3、私学教員へ向けた研修会の実施

- ✓ 東京都私学教育研究所主催 参加者11名
<https://k.tokyoshigaku.com/seminar/seminar-kenshu/seminar-kenshu-geijutsu/3689/>

1, e-Lifesaving に関する情報発信

1-6 海上保安庁からの発信

開設している海水浴場で安全に遊泳しましょう！

～新型コロナウイルス感染症の影響で開設されない海水浴場が多く存在します！～

開設されていない海水浴場や海水浴場ではない海浜での遊泳は安全対策が確保されていないため**危険です！**

- 監視員、ライフセーバー等の不在
事故発見が遅れる、救助体制が整っていない
- 遊泳区域がない
水上オートバイや小型船舶との接触、急に水深が深くなる
- 沖に流される
離岸流が発生しやすい場所が多い、沖への風が吹きやすい場所がある

海で溺れた場合には、安全を確保するため、背浮きや浮き沈みをしながら続けて長く浮くように心がけましょう。

※詳しくは、次ページ日本ライフセービング協会HPをご覧ください

※開設された海水浴場の情報は、各自治体等のホームページまたは第八管区海上保安本部ホームページでご確認ください。

・第八管区海上保安本部HP <https://www.kaiho.milt.go.jp/08kanku/>

第八管区海上保安本部 浜田海上保安部

〒697-0063 島根県浜田市長浜町1785-16
電話番号: 0855-27-0770(代表)

<痛ましい海浜事故事例>

事例 1
令和2年7月、福岡県新宮町の海岸で子どもだけで遊んでいた小学4年生の女児3人のうち、1名が波にさらわれ溺死しました。例年であれば海水浴場として開設されて監視員等が常駐しているところ、新型コロナウイルスの影響で海開きされておらず、監視員等はいませんでした。

事例 2
令和2年6月、茨城県ひたちなか市の海水浴場に高校生の友人5人で訪れ、そのうち1名が水域内設置の沖合構造物までビーチボールを抱えて泳ぎ始めたところ、ビーチボールが外れ溺死しました。この海水浴場は海開き前であったことから、監視員等はいませんでした。

<背浮きや浮き沈みをしながら助かった事例>

平成29年3月、沖縄県石垣市の海水浴場において、友人3人とビーチで磯遊びをしていた小学6年生の男子1名が、深みにはまり流されたものの、テレビ番組で見た「流された場合の姿勢（仰向けで力を抜いて大の字になる。）」を思い出してその姿で漂流。その間、友人が近くにいた大人に救助を求め、ビーチ救難所の水上オートバイにより救助された。

水辺での安全指導、監視・救助を行う団体である（公財）日本ライフセービング協会と海上保安庁は、平成30年に協定を結び事故情報の共有や事故防止対策や安全啓発活動を実施しています。

今回、日本ライフセービング協会作成のe-ラーニングを紹介させていただきますので、海水浴における事故防止指導教材としてご活用ください。

<公益財団法人日本ライフセービング協会>

守ろう！いのち
学び合おう！水辺の安全

<https://elearning.jla-lifesaving.or.jp/>

<政府インターネットテレビ>

「海上保安庁監修」～海のプロにきく“遊泳時4つの心得”～

政府の重要政策を動画で紹介
政府インターネットテレビ

<https://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg20942.html>

2, e-Lifesaving に関する実践と情報発信

2-1 守ろういのち 学び合おう水辺の安全オンラインセミナー 協力：一般社団法人吉川慎之介記念基金

6月14日（日）@成城学園

6月28日（日）@成城学園

溺れた際の対処法を学ぶ

水辺の事故防ごう 親子向けオンラインセミナー

2020年6月16日（火）（愛媛新聞）

 シェア
 ツイート
 LINEで送る
 文字
 小
 大

海水浴シーズンを前に「守ろう!いのち 学び合おう!水辺の安全セミナー」(吉川慎之介記念基金など共催)が14日、ビデオ会議アプリ「Zoom(ズーム)」を使ってあり、愛媛県西条市や東京などから親子14組が参加した。新型コロナウイルスの影響で水泳の授業縮小や中止が相次ぐ中、小中学生が海で溺れた際の対処方法をネット上で学んだ。

同基金は2012年7月に西条市の加茂川で幼稚園のお泊まり保育中に流され亡くなった吉川慎之介ちゃん＝当時（5）＝の両親が設立。日本ライフセービング協会も共催し、初めてのオンライン開催となった。



ビデオ会議アプリを使って水辺での安全な過ごし方を指導する吉川優子さん（左）と松本貴行さん
= 14日午前、東京都世田谷区

ヤフーニュース

東京特別報道局

■水辺に向かう前、日本ライフセービング協会が呼びかける心構えや準備

その日の気象状況と風や波の情報を調べる

浮く物やライフジャケット、簡易的な応急手当てができる準備をする

波の高さや水深、沖への流れなどを確認しながら入水し、足づく距離で遊ぶ

アルコール飲料を飲んだからの入水は絶対にやめる

もし手触などから怪に感じられた場合、泳いで逃いかけない

一人一人がライフセーバー。子どももかみ目を短さない

変わる 水辺の安全



オンラインで開かれた水辺の安全セミナー＝吉川順之介記念基金提供

ライフセーバーいない海も ■着衣泳オンライン講習

2020年(令和2年)6月24日(水)

ライフセーバーいない海も ■ 着衣泳オンライン講習

[illegible]

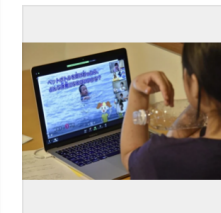
朝日新聞



東京新聞

水難事故防ぐウェブ講習会 遺族企画、授業中止受け

6/14(日) 15:50 配信



水難事故防止のオンライン講習会に
参加する小学生=14日、東京都内

た。

2012年、愛媛県で幼稚園のお泊まり保育中に川に流され死亡した吉川慎之介ちゃん=当時(5)=の両親らが企画した。

共同通信



愛媛新聞



NHK ニュース7

2, e-Lifesaving に関する実践と情報発信

2-2 守ろういのち 学び合おう水辺の安全オンラインセミナー



ソーシャルイノベーションニュース

コロナ禍こそ水辺のそなえを ～第1回：ライフセーバーが教える 水辺の事故の防ぎ方

<https://youtu.be/4nw62q9BaGk>

※151回視聴（2021年3月）



海さくらチャンネル

水辺の安全オンライン教室

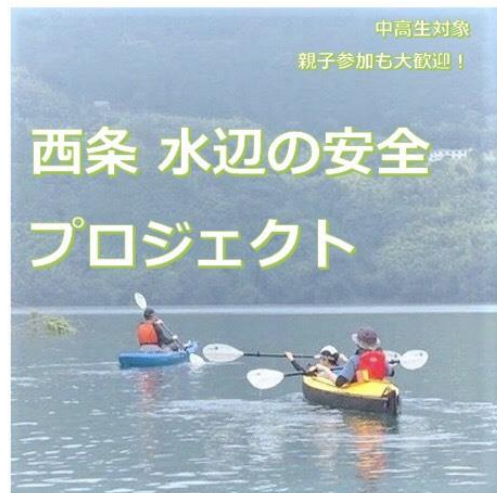
<https://youtu.be/HhN4iNeckmg>

※324回視聽（2021年3月）

7月26日（日）@成城学園

2, e-Lifesaving に関する実践と情報発信

2-3 西条市 水辺の安全プロジェクト オンラインセミナー



楽しみながら安全を学ぶ体験型セミナー

豊かな自然あふれる西条市の魅力を感じながら
フィールド体験で安全を学び、感じたことを発信しよう！
オンラインでのセミナー（zoom 使用）からアクティビティ体験、動画編集までを
目的としています。たくさんの要素が詰まった楽しく学べるプログラムです！
西条の自然をいつもと違う体験をし
てもっと知ろう！水辺の安全について
考えよう！「魅力的で安全意識も
高い西条市」をあなたが発信してア
ピールしませんか？

オンラインセミナー講師 紹介
松本貴之先生
・公益財団法人日本ライフセービング協会副理事長・教育本部
長
・学校法人成城学園中学校高等
学校 保健体育科教諭

プロジェクトの日程
① 7/26（日）
オンラインで学ぶ
「守るいのち 学びあおう水辺の安全」セミナーをオンラインで受講
講師：松本貴行先生
時間：10:30～11:30 予定
場所：ご自宅または市民活動支援センター（SSC）内で zoom
受講 ※定員 10 名
② 8/2（日）
自然を知る・学ぶ・遊ぶ
市内ポイントにて「カヌー体験」
フィールドに出ることによって感じる
魅力や安全の大切さを体験
※プロのガイドが付きます。
時間：午後（詳細調整中）
参加費：一人 ¥1500（安全
装備、カヌーレンタル 保険料込
み）定員：8 名
場所：加茂川東宮予定 ※当
日の天候、状況により変更有
→8/16（日）までに動画を編
集して魅力と安全を発信しよう！
体験から感じた西条の魅力と安全
について動画を編集、SSC 公式
YouTube チャンネルに投稿 ※動画
は体験の様子をスタッフが撮影したもの
を、お渡しし、編集を担当してもらいます。
体験日（②8/2）のみの参加
も OK！体験までに①の動画を視聴の
上で参加していただきます。①オンライン
セミナーのみの参加も大歓迎！
申し込みはまずメッセージを！
LS さいじょう Facebook → @
SSC Instagram (@saijosscc)

西条市広告



愛媛新聞



【子供たちの命を守れ！
ライフジャケットの着用を】

日本財団 海と日本PROJECT
in 富山県 2020 #35

※324回視聴（2021年3月）

<https://youtu.be/e1x1AxcGwE4>

2, e-Lifesaving に関する実践と情報発信

2-4①共同発信、及び海水浴場での周知



Web授業の風景



NHK ニュース

公益財団法人日本ライフセービング協会
2020年6月24日

PRESS RELEASE

報道関係者各位

水辺の安全を学べる専門WEBサイト e-Lifesaving <川編> 公開

水辺の安全はこの夏に限ったことではありません。公益財団法人日本ライフセービング協会（JLA 東京都港区浜松町2-1-18）では、より一層、水辺の安全に対する知識と技能を皆さんとともに考え、お伝えしたいと思っています。今回は水辺の安全について学べる専門WEBサイト『e-Lifesaving』へ、公益財団法人河川財団との協同制作により、新たに『川編』が加わりました。学校ではもちろん、ご家庭やお友達同士でも、いつでも無料でご利用いただけます。『プール編』『海編』とともにぜひ活用してください。

<https://elearning.jla-lifesaving.or.jp/>

【e-Lifesaving（イーライフセービング）】

パソコン・タブレット端末とネットワーク環境があれば、学校で、自宅で、動画を見たり、クイズに答えて、どこでもWater Safetyが学べます。

子どもたちが水辺の事故防止の心構えや、安全のための知識と技能を身に付け、楽しく活動できることを願い、この教材を制作しました。

小学校・中学校の新学習指導要領に沿った「水泳運動の心得」や「安全確保につながる運動」、「水辺の事故防止に関する心得」などへの実践的理解を深めるような構成となっています。主に学校教育において、電子黒板やPC・タブレット端末等を使用し、主体的・対話的な学びを促すことをねらいとしています。プール活動や体験活動の事前指導、道徳や総合的な学習の時間など、水辺の安全教育に幅広くご活用いただけます。

- イラストを見ながら事前学習
- ドラマを見ながら水辺の危険や、もしもの対処を考える
- 実践動画で「助かる方法」「助ける方法」を学ぶ
- クイズに答えてWater Safetyについて学ぶ

e-Lifesavingは、海と日本プロジェクト【日本財団】（<https://www.nippon.jp/>）の助成で、公益財団法人河川財団（<https://www.kawazai.or.jp/>）と共同で制作しています。くまなく活用できる！>新教材は海と日本プロジェクトの動画公開 <https://youtu.be/p8Am5f8uoc> こちらもぜひご覧ください！>授業やセミナーで活用できます。

8月21日（金）日本ライフセービング協会と河川財団の共催で、小中学生向けに、e-Lifesaving<川編><海編>を用いた公開オンライン講習会を開催しました。一般社団法人吉川慎之介記念基金の協力もあり、代表の吉川慎之介さんもご一緒に、大人や指導者向けのミニセッションも同時開催しました。水辺の安全対策や事故防止については、それぞれの専門団体が、横断的に協力し、様々な年代へ「知っている」から「実践できる」ようにアプローチすることが重要です。

このリリースに関する取材・お問い合わせ
日本ライフセービング協会事務局
TEL.03-3459-1445（平日12:00-18:00）FAX.03-3459-1446 E-mail: press@jla.or.jp
〒105-0013東京都港区浜松町2-1-18トップビル <https://jla-lifesaving.or.jp/>

水辺を楽しまれるみなさまへ、日本ライフセービング協会から大切なご案内です。

守ろう！いのち 学び合おう！水辺の安全 Swim & Survive

JLA e-Lifesaving

<https://elearning.jla-lifesaving.or.jp/>



パソコン・タブレット端末とネットワーク環境があれば、学校で、自宅で、動画を見たり、クイズに答えて、どこでもWater Safetyが学べます！（無料）

公益財団法人日本ライフセービング協会は、子どもたちが水辺の事故防止の心構えや、安全のための知識と技能を身に付け、楽しく活動できることを願い、この教材を制作しました。小学校・中学校の新学習指導要領に沿った「水泳運動の心得」や「安全確保につながる運動」、「水辺の事故防止に関する心得」などへの実践的理解を深めるような構成となっています。学校教育において、電子黒板やPC・タブレット端末等を使用し、主体的・対話的な学びを促すことをねらいとしています。プール活動や体験活動の事前指導、総合的な学習の時間、あるいは家庭学習としても幅広くご活用できます。みなさまの水辺での楽しい活動に、少しでもお役立てできれば幸いです。

e-Lifesaving

公益財団法人 日本ライフセービング協会
ライフセービング教育本部

水辺のどんなところが
あぶないのかな？

水の中で
体はどうなるのかな？



もしもお友達が
水に落ちてしまったら
どうすればいいのかな？



水に入らないで
助ける方法が
あるのかしら？

どうやって
ライフジャケットを
正しく着るのかしら？

制作協力：学研プラス



日本財団助成事業

JLA e-Lifesaving ～Swim&Survive～は子ども達への水辺の安全ICT教育プログラムとして、日本財団（<https://www.nippon-foundation.or.jp/>）の助成により開発されました。



JLAから子ども達に、自分でできる水辺の安全対策を伝えたい

取材お申込・お問い合わせ
日本ライフセービング協会 E-mail: press@jla.or.jp

水辺の事故ゼロをめざして
日本ライフセービング協会

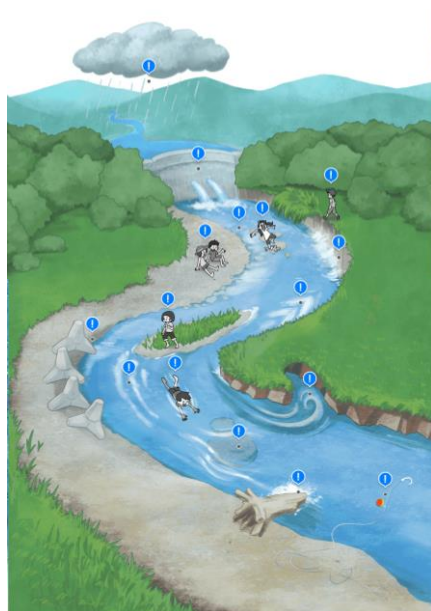
2, e-Lifesaving に関する実践と情報発信

2-4②共同発信、及び 海水浴場での周知

共同通信PRワイヤー
配信結果（8月24日）

～川編導入～

協力：河川財団

[illegible]

件数：52件
 広告概算値合計：¥14,914,867

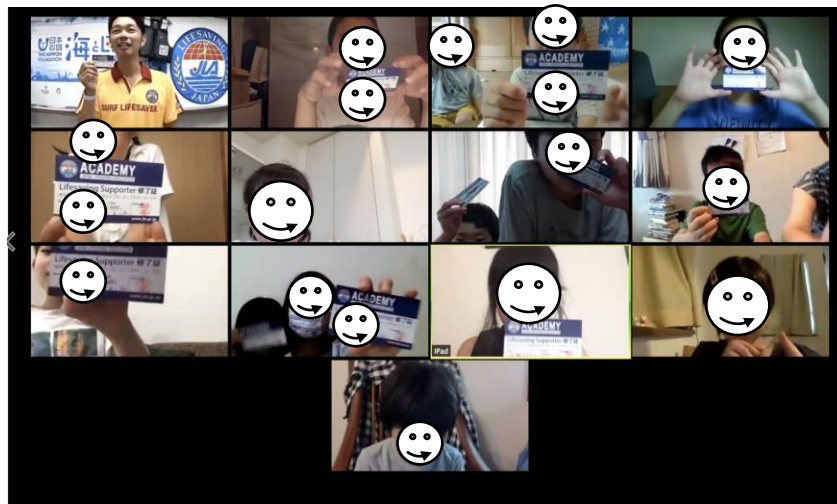
3, e-Lifesaving を活用したオンライン講座の様子と感想 ①



オンラインでも主体的な学びを引き出せる



少しでも海を感じてもらいたい…。貝殻の参加賞！



終了時には保護者から修了証を渡してもらう演出も



事後には保護者、指導者の方からのご感想を集約

3, e-Lifesaving を活用したオンライン講座の様子と感想 ②

Q「楽しかったか」
「楽しくなかったか」

Qその理由

Q気づいたことや思ったこと等（自由感想）

楽しかった	怖かったけど、その危険をわかってよかった	知ってよかったのは、浮くものがわかってよかった。知らなかったから。ランドセルやペットボトルが浮くとは知らなかった。
楽しかった	ライフセーバーなど、これまで知らない知識が身に着いた。動画が分かりやすかった。	ペットボトルの使い方が勉強になった。
楽しかった	他のみんなのいろいろないけんもきけてたのしかった	溺れたときにどうすればいいのか知ってよかった
楽しかった	インターネットで、いろいろなお友達とつながりながら、先生とのやりとりも楽しみながら、参加できました。終わった後に修了証とプレゼントがもらえ、とても嬉しかったです。	水辺の怖さ。自分が溺れた時にどうすれば良いか。溺れた人を見つけた時に、自分はどうすれば良いか。を知ることができて良かったです。
楽しかった	海がこわいしおとなをよぶことがまなべたからです。	もし、海に、友達がおちたら、自分は、行かないで、ライフセーバーをよぶことをしました。あと、らっこむきになるのもよくしました。
楽しかった	クイズがあったから。	おうちでできて、楽しかったです。知ってることが多かったけど、確認できました。
楽しかった	クイズがたのしかったです。	ありがとう。
楽しかった	クイズが楽しかった。	海の怖さを知れて良かった。

3, e-Lifesaving を活用したオンライン講座の様子と感想 ③

Q「満足した」「満足しなかった」「どちらともいえない」	Qその理由	Q気づいたことや思ったこと等（自由感想）
満足した	子どもが関心を持って参加できる内容で、親子の対話のきっかけになったから。他のお友達の意見も聞くことができて、刺激になったようです。	印刷物やWeb記事などを読むことも大事ですが、子どもにとって専門家の方の生のお話を聞くことに勝るものはないなと感じました。全てが一気に身につくものではないと思いますが、あのときこんな話を聞いたな、と必要な時に思い出せること、が子どもの財産になります。全体を通して、注意やお説教、という感じではなく、水辺を楽しんでもらいたいからこそ、という主催側の皆さんの思いが伝わってきました。良い機会をありがとうございました。
満足した	zoomでお手軽に参加できる。海・水に関する危険を知ることができる。これからのシーズンにぴったり。	動画などで分かりやすく伝える点はよいと感じた。自分の経験では、水の楽しさ（特に、こわさ）は、水の場合は、やはり、水の体験を通じた学習も必要なので、こうした座学（zoomを含む）と体験型が組み合わせるとよいと感じた。最後の挨拶や感想を聞く時間は、結構時間が長く、ダレル感じがあった（かなり大人のための時間のようにも感じた）ので、子どもは参加させない、大人だけにする、などの工夫が必要かもしれない。
満足した	こどもへの子供によるドラマ仕立ての動画がとてもわかりやすかったし、こどももくいてよく見ていました☆こどもの回答に一つ一つ反応してくれるのも参加している意味をこども自身が実感していたのでよかったとおもいます☆	オンラインが終わったあと、冊子に名前を書いたり、海に行く時はこれを持っていくと言っていました^ ^ 離岸流のこのの意味をもっと詳しく知りたかったみたいです。保護者としても大変勉強になりました。ありがとうございました☆
満足した	内容が充実しており、親子で一緒に学ぶことができたから。	親子でオンライン型のセミナーに参加するのは初めてでしたが、子どもも予想以上に前向きに参加してくれて、良かったです。人数的にも少人数で、参加型イベントしてちょうどよい規模だったと思いました。サプライズの修了証やプレゼントなど、配慮をいただきありがたかったです。ありがとうございました。
満足した	映像等も交えて、とても分かりやすい講座だったと思います。ありがとうございました。	またやりたい！と子どもが言っていたので、こういった形の講座もいいんだな・・・と思いました。プレゼントがとてうれしそうでした！ありがとうございました！
満足した	セミナー終了後、開口一番に娘が『楽しかったー！』と言っていました。楽しかったという事は、興味を持って参加できた証かと。	子供達に向けての質問の時、ある程度の人数が意見を出せた時に締め切ってから、質問の答え合わせや意見交換をした方が、子供達はしっかり話を聞けるかなと感じました。せっかく答え合わせをしてくれていても、まだ答えを書くことに集中してしまってた時があったので。
満足した	とても解りやすく、子どもたちが想像以上に意欲的に参加できたから。	自分が知っていたこと、知らなかったことを改めて確認、整理できた様子でした。小1の息子はライフジャケットの着用方法を僕は知っている！いつも着てる！とライフジャケットを着ることが何だか誇らしく感じていた様子。自分の行動と学びが自分を守り、誰かを守ることになる、ということ子どもたち自身が感じられているように思いました。私も一緒に見守ることができたので、セミナー内容を話題に話し合えたり一緒に考えたりできて良かったです。受講後いただいたカードと貝殻はとても喜んでいました。達成感にもつながってとても嬉しそうでした。瓶に入れて飾っています。
満足した	オンラインの特性を活かしたセミナーでした。教室などでの大勢での受講と異なり、先生との距離感が近く、しっかり向き合える事を感じられました。子どもに考えさせ、モニターを通して発表させる事、そしてその発表内容を先生がくまなく拾ってくれる事で、参加している楽しさが倍増し、引き込まれていってる子どもの様子が輝かかったです。また、修了証やプレゼントは、とても達成感を高め、人とのつながりをも感じるあたたかなサプライズに親子で感激いたしました。	終了後は、これまでに起きた事故を詳しく知ろうとし、予防できたかと思ふける我が子の姿に、本セミナーの意義を強く感じる事ができました。
満足した	子供も飽きずに集中して話を聞くことができたので。	海がこわい場所であること、溺れてしまうことがあるかもしれないこと、そうなった場合どうすればいいか等、想像できたと思います。今日教えて頂いたことを知って海に行くのと知らないで行くのでは危険に対する意識が全然違うと思うので参加できて良かったです。ありがとうございました。

4, その他 e-Lifesaving を用いた指導実践 (スイミングクラブ連携)

アクラブで朝活しましょう!

命を守るための水泳授業

1955年に瀬戸内海で起きた海難事故(紫雲丸衝突事故:小学生100名を含む168人が亡くなるという大惨事)をきっかけに学校プールの整備が進み、水泳授業が正課となりました。その成果もあって、溺水などによる年間2,000件あったと云われる子供の水難事故は激減しました。2000年以降は100人程度で落ち着いています。子供の命を守るという点にのみでも小中学校などの水泳指導が果たした役割は計り知れません。しかし、今年はコロナ禍余波で学校水泳がありません。更に、公共施設やレジャー施設のプール運営も中止または縮小が決定しています。そこで、アクラブでは水難事故防止の切っ掛けになるような「水泳授業」を開催します。兄弟姉妹、友達と一緒に是非、参加してください!!

尚、チャリティー活動として、このイベントによる収益から経費を除いた全額を日本ライフセービング協会へ寄付します。

命を守るための水泳授業

日時・対象	8月 4日(火) 午前 8:45~10:00	小学2~3年生
	8月 5日(水) 午前 8:45~10:00	小学3~4年生
	8月 6日(木) 午前 8:45~10:00	小学1~2年生
	8月 7日(金) 午前 8:45~10:00	小学4~6年生
申込期間	7月7日(火) ~ 各イベント開催日の2日前まで ※各イベント等、定員になり次第締め切ります。	
参加費	1,100円 定員 各日40名 ※最少催行人数 5名	
内容	サバイバルスイミング(20分)+泳力別グループ練習(30分)+自由練習(25分) ※お申し込み頂いた方はご希望により、オンラインセミナー(e-ライフセービング)を受講する事が可能です。 (提供 日本ライフセービング協会)	
申込方法	アクラブHPのチャリティーイベントフォームよりお申し込みください。	
その他	このイベントは公益財団法人日本ライフセービング協会の協力を頂き、開催します。 公益財団法人日本ライフセービング協会とは、『すべては水辺の事故ゼロをめざして』をスローガンに、水辺の安全教育などを永年に亘って行っているスペシャリストです。	

主催

アクラブ堀之内

042-670-0088

<https://www.aqlub.com/cms/horinouchi/>

協力

公益財団法人
日本ライフセービング協会
JAPAN LIFESAVING ASSOCIATION

<https://jla-lifesaving.or.jp/>

LIME 株式会社 ライム

03-3977-6632

<https://lime78.co.jp>



e-Lifesavingによる知識の習得と、プールでのWSプログラムを融合させたトライアル。アクラブのインストラクターも参加し、**継続的な安全教室**の実施を視野にともに学んでいた。



アクラブ主催 講師派遣 e-Lifesavingを活用した指導実践
(稲城店、堀之内店、八王子店、調布店、藤沢店)

5, e-Lifesaving に関連する学会報告及び講演会 ①

日本臨床救急医学会
2020年8月5日（水）
シンポジウム（ウェブ収録）

「水辺の事故防止を目的とした教育連携の重要性」をテーマとし、ライフセーバーでなくても、**だれでも水辺の安全教育が展開できる「e-Lifesaving」**について紹介した。特に開発プロセスとコンテンツの特色、今後の展望についてを発表した。

水辺の事故ゼロと救助救命に関する多職種連携
演題番号 SY17-1 (C)
○松本 貴行^{1,2}
¹公益財団法人日本ライフセービング協会/ライフセービング教育本部、²消費者庁消費者安全調査委員会/専門委員

水辺の事故防止を目的とした教育連携の重要性

ライフセービングとは「人命救助を本旨とした社会活動で、水辺の事故防止のための実践活動」を意味する。昨今では、事故を未然に防ぐための環境整備や人材教育にも注力している。主に行政、教育機関との連携・協力について紹介する。①「守ろう！いのち 学び合おう！水辺の安全」ICT教材の開発と学校教育への導入事例。小学校・中学校の新学習指導要領に沿い「安全確保につながる運動」「水辺の事故防止に関する心得」等への実践的理解を深められる構成とした。電子黒板やPC・タブレット端末等を使用し、主体的・対話的な学びを促すことがねらい。今夏のプール活動や体験活動の事前指導、総合的な学習の時間等、幅広く誰もが水辺の安全教育に触れられることが特徴。②教育・保育施設等におけるプール活動・水遊びに関する実態調査及び映像解析への協力。プール活動や水遊びにおける事故件数は、他の活動と比べて少ないものの、重篤な事故につながってしまうこともある。教諭の「監視不備」が起きやすい状況や、「子どものリスク行動」を理解することで、監視の質を高め、事故を未然に防ぐことにつなげたい。消費者庁の情報開示を受けて、本発表の内容を検討する。

シンポジウム 17 (SY17)

「水辺の事故ゼロと救助救命に関する多職種連携」

座長

東海大学 救命救急医学 中川 儀英
君津中央病院 救命救急センター 北村 伸哉

SY17-1 (C) 水辺の事故防止を目的とした教育連携の重要性

..... 公益財団法人日本ライフセービング協会 /
ライフセービング教育本部 松本 貴行

SY17-2 (C) 海水浴場における溺水・傷病の実態と救助救命の高度化

..... 公益財団法人日本ライフセービング協会 溺水防止救助救命本部 石川 仁憲

SY17-3 (C) 地域ライフセービングクラブが公的機関と連携するために

..... 特定非営利活動法人 西浜サーフライフセービングクラブ
副理事長 石川 修平

SY17-4 (C) 海上保安庁と日本ライフセービング協会との連携強化について

..... 第三管区海上保安庁本部警備救難部 救難課 寺門 嘉之

SY17-5 (D) 救助救命，メディカルコントロールの連携と課題

..... 防衛省防衛医科大学 病院救急部 吉澤 大

SY17-6 (C) 水難救助事案等における関係団体との連携強化にむけて

..... 藤沢市消防局 警防課 秋葉 雄一

日本臨床救急医学会雑誌

Journal of Japanese Society for Emergency Medicine

第23巻第3号 2020

第23回日本臨床救急医学会総会・学術集会
プログラム・抄録集

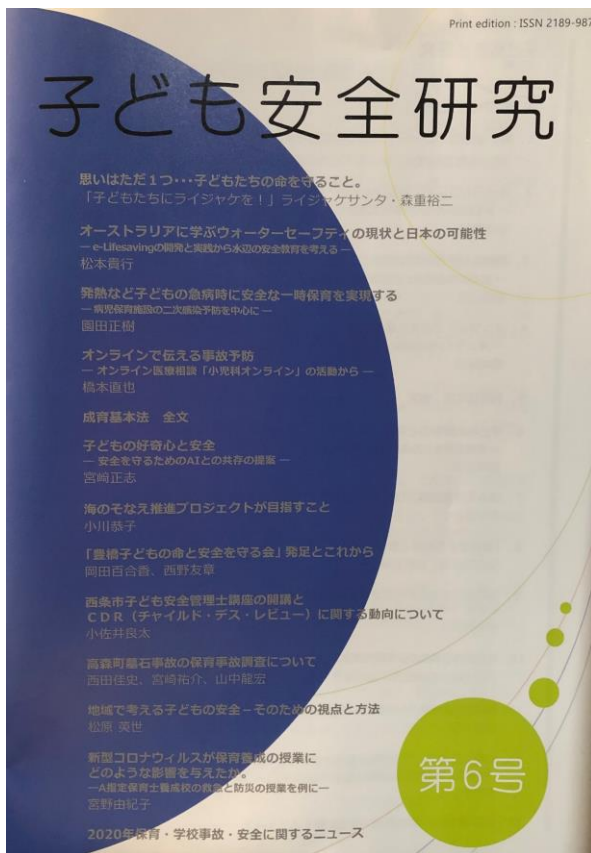


JAPANESE SOCIETY FOR EMERGENCY MEDICINE

日本救急医学会誌 (JSEM)

URL <http://jsem.umin.ac.jp/>

5, e-Lifesaving に関連する学会報告及び講演会 ②



日本こども安全学会
2020年9月26日（土）

オーストラリアに学ぶウォーターセーフティの現状と日本の可能性
～e-Lifesavingの開発と実践から水辺の安全教育を考える～

オーストラリアに学ぶウォーターセーフティの現状と日本の可能性^①

～e-Lifesavingの開発と実践から水辺の安全教育を考える～^②

松本 貴行（公益財団法人日本ライフセービング協会副理事長／学校法人成城学園教諭）^③

1. 水難の現状^④

世界保健機関（WHO）の Global report on drowning 2014^⑤によると、日本（8,999 人、2011 年）はロシア（11,981 人、2010 年）に次いで世界で2番目に溺死者が多い。図-1の厚生労働省の統計^⑥では2011年を境に不慮の溺死者数は、交通事故死者数を上回っている。その実態は、家庭内における浴槽での事故が圧倒的に多く、次いで不明、自然領域における水の事故という内訳となっている。^⑦

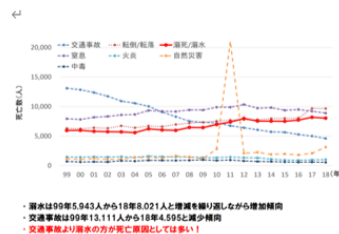


図-1 主な不慮の事故の種類別にみた死亡数（厚生労働省）^⑧
よりJLA 作成^⑨

警察庁^⑩によると令和2年夏期（7～8月の2か月間）における水難の発生件数は、504件（前年対比+43件）、水難者616人（前年対比+22人）、うち死者・行方不明者は262人（前年対比+23人）と、発生件数、水難者とも平成28年を境に減少していたが、このコロナ禍において増加に転じている。このうち中学生以下の子どもの発生件数は60件（水難者が子どものみの場合）、水難者101人、うち死者・行方不明者16人（前年対比+2人）という結果となっている。^⑪

令和2年は感染症対策の観点から海水浴場の開設の有無が各都道府県や市区町村により分かれ、通常の監視救助体制が整わなかった背景がある。^⑫

公益財団法人日本ライフセービング協会（以下JLA）は、全国197か所の海水浴場に認定ライフセーバーを配置している（2019）。救助した過去の平均人数は2,341人（2015-2019）である^⑬。一方、

平成29年海難の現況と対策^⑭（海上保安庁）に記載されている活動内容別事故者数の推移によると、遊泳中の平均人数は293人（2013-2017）である。ライフセーバーは公的救助機関から示される数の約8倍にも及ぶ事故を対処していることになる。^⑮

図-2の海水浴場における年齢別の救助人数によると、20-24歳が最も多く、次いで5-9歳、10-14歳の年齢に多い実態からも、水辺の事故防止に関する正しい知識と技能を身に付けることのできる実践的な水泳授業が重要と言える。^⑯

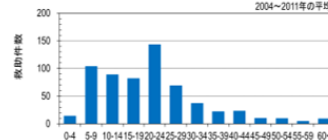


図-2 海水浴場における年齢別の救助人数（JLA）^⑰

2. 体育授業における水泳の実態^⑱

図-3に示す文部科学省の調査^㉑（2014年）によると、小学校において「浮く・泳ぐ運動」は、「よくできた・ややできた」が8割近くと、一定の成果を収められている。しかし、小学校と中学校を比較すると、中学校の水泳では、その数値が減少している。^⑲

一方、教員の「指導のしやすさ」という観点では、小学校の70.1%に対し、中学校の水泳では、58.2%と、他の領域と比較して低い。その要因として、水着になることへの抵抗感や、「泳がず子」と「泳がない子」の二極化が明確となり、教員側も児童・生徒それぞれの能力に合った授業展開に苦慮している様子が見える。^⑳

学校側はプール施設管理を含め、児童・生徒の体調管理、溺水事故や熱中症のリスク等、十分な注意を払ったうえで授業実施しなければならない。他の膨大な業務を抱えつつ、水泳の安全管理と指導の両輪を担う重責は計り知れない。^㉑



図-3 文部科学省「体育・保健体育の授業の実態（2014）」より作成^㉒

では水泳授業の内容は何を実施しているのか。^㉓

図-4に示す「小学校体育における水泳授業の実態に関する研究」^㉔（佐藤・池田：2019）によると、競泳に偏った水泳授業の実態と、さらには学校独自のカリキュラムがある学校ほど、泳法指導に傾斜した内容の授業構成となっていることがわかる。また実技を伴う水辺の安全教育については具体的に実施されていない様子がうかがえる。^㉕



図-4 小学校における水泳授業の実態に関する調査 佐藤、池田^㉖（2019）より作成^㉗

3. 水泳の可能性^㉘

わが国の水難の状況を国民一人一人がまずは知り、関心を抱き、予防策を講じる動機に繋がっていくことが重要である。さらには水泳教育が泳法指導を中心とした内容となっている実態を見直すことも必要と考える。^㉙

2017年告示の小学校学習指導要領^㉚・体育「水泳領域」で高学年に「安全確保につながる運動」が新設されたことは、特に水辺の事故に遭った際、続けて長く浮いていることが自分の命を守ることにつながるというサバイバル・スキルの視点である。（図-5）中学校学習指導要領^㉛でも内容の取扱において「学校や地域の実態に応じて、安全を確保するための泳ぎを加えて履修させることがで

きること」、「水泳の指導については適切な水泳場の確保が困難な場合にはこれを扱わないことができるが、水泳の事故防止に関する心得については、必ず取り上げること」としている。^㉜

プールだけに限らず、自然環境下での危険予測に関する知識や安全対策は、体育の求める「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力」において重要である。授業を通じて水の特性を理解する中で、自然的要因やリスクを想定し、対処法を対話的学びの中から引き出すことが求められる。児童生徒が浮く動作の重要性や泳力の必要性を実感し、主体的学びにつながることを望ましい。^㉝

1.2 年生	3.4 年生	5.6 年生
水遊び ^㉞	水泳運動 ^㉟	
水の中を移動する運動遊び ^㊱	浮いて進む運動 ^㊲	クロール ^㊳
もぐる・浮く運動 ^㊴	もぐる・浮く運動 ^㊵	平泳ぎ ^㊶
遊び ^㊷		安全確保につながる運動 ^㊸

図-5 2017年告示小学校学習指導要領における水泳領域の^㉚構成と内容^㉛

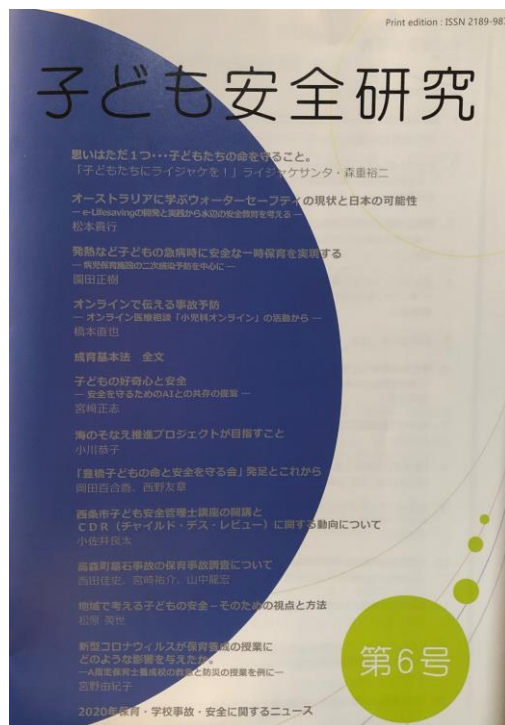
4. オーストラリアに学ぶ^㉜

Royal Life Saving Society-Australia（以下RLSSA）は、各州の水辺で起きている溺水調査を通して、教育機関と連携しプログラムを展開している。^㉝

AUSTRALIAN WATER SAFETY STRATEGY 2016-2020^㉞（図-6）では、他に SURF LIFE SAVING AUSTRALIA や AUSTSWIM が協働し、それぞれの組織における溺水事故データを集約し、明確な溺水事故防止における優先すべきターゲットを記している（図-7）。さらには水との関わり方や身のこなし、万一の対処行動等、達成すべき能力の枠組みも記している（図-8）。^㉟

オーストラリア政府は溺水事故データを根拠とし、教育の必要性に着目、学校と RLSSA の連携の元、ウォーターセーフティプログラムの実践や、ICT 教育の制作に至るまで、国策として溺水事故防止の展開を支援しているのである。^㊱

5, e-Lifesaving に関連する学会報告及び講演会 ③



それらの指導にあたるのは RLSSA の指導員である。教員は学校から民間プールまでを引率するのみである。プログラム内容はライフジャケット着用の有無による落水体験(図-9、図-10)。後に安全上、速くその場から移動することを目的としたクロールや(図-11)、ある程度長い距離でも体力の消耗を避け、移動するライフセービング・バックストローク(図-12)を実施。いずれもライフジャケットの効果や着用上の留意点を説明した上での実習であった。その他にも溺れている人に対する安全な救助方法も学んでいた。生徒たちは毎年受講し、継続的な学びを心身の成長とともに身に付けていく。「知っている」「やることがある」から「理解している」「実践できる」という学びのプロセスを通じて「いかにそれを必要としない自分になれるか」という思考に結び付けていくのである。そこに ICT 教育(RLSSA が製作した e-learning 教材)との連動が存在する(図-13)。上記実技の前後や、また実技が実施できない場合においても、リアリティーある映像や問いかけの中から、水辺の危険に関する想像力と知識を養い、対話的な深い学びにつなげていくのである。



AWSS 2012-15	AWSS 2016-20
Priority Area One: Taking a Life Stages Approach 1. Reduce drowning deaths in children aged 0-14 2. Reduce drowning deaths in young people aged 15-24 3. Reduce drowning deaths in older people aged 25+ 4. Reduce drowning deaths in people aged 65+	Priority Area One: Taking a Life Stages Approach 1. Reduce drowning deaths in children aged 0-14 2. Reduce drowning deaths in young people aged 15-24 3. Reduce drowning deaths in older people aged 25-44 4. Reduce drowning deaths in people aged 45+
Priority Area Two: Targeting High-Risk Locations 5. Reduce drowning deaths at inland waterways 6. Reduce surf beach drowning deaths 7. Reduce drowning deaths by strengthening the aquatic industry	Priority Area Two: Targeting High-Risk Locations 5. Reduce drowning deaths at inland waterways 6. Reduce drowning deaths in coastal waters 7. Reduce drowning deaths by strengthening the aquatic industry
Priority Area Three: Focusing on Key Drowning Challenges 8. Reduce alcohol and drug related drowning deaths 9. Reduce drowning deaths attributed to watercraft and recreational aquatic activities 10. Reduce drowning deaths in high-risk populations 11. Reduce the impact of disaster and extreme weather on drowning deaths	Priority Area Three: Focusing on Key Drowning Challenges 8. Reduce alcohol and drug related drowning deaths 9. Reduce drowning deaths attributed to watercraft and recreational aquatic activities 10. Reduce drowning deaths in high-risk populations 11. Reduce the impact of disaster and extreme weather on drowning deaths

図7 Comparison of goals between the AWSS 2012-15 and the AWSS 2016-20

School Level	Competency Framework	Minimum competencies	% Target Population
Infant And Pre-School	Experience in skill competencies for safe water entry & exit, floating & treading, breathing, movement & swimming, rescue, survival & underwater skills, water safety education & parent education	Participation in the program	100%
Primary School	Personal Aquatics Survival section of the National Swimming and Water Safety Framework Competencies to be achieved by the completion of Primary School education	Equivalent to Swim and Survival Level 4 (and surf life saving) and Level 5 (and surf life saving) and Level 6 (and surf life saving) and Level 7 (and surf life saving)	100% 75% 50%
Secondary School	Life Saving section of the National Water Safety Framework - including exposure to Basic First Aid & Resuscitation Training Competencies to be achieved by the completion of Year 10	Equivalent to RLSSA Dry Rescue, including Resuscitation (and RLSSA surf survival) where available RLSSA Bronze Star (and RLSSA surf survival) where available RLSSA Bronze Medalist	100% 75% 50%

図8 National Water Safety Education Competency Framework



図-9



図-10



図-11



図-12

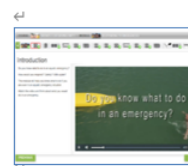


図-13

溺水を想定する動画が流れ、溺水にあった

子、救急車を呼ぶ子、助けに行く子等、それぞれ

の立場になり、その行動

を考え、検証する学習内容となっている

5. 日本に求められる水泳(水辺)教育の在り方

今回の小・中学校における学習指導要領改訂は、

水泳授業の本質を見つめ直す機会と捉えなければ

ならない。それは今まで起きてきた自然災害や水

の事故の歴史を今一度、胸に刻むことである。

夏の終わりに報道される事故の様子や件数には、

決して表現できないほどの苦しみや、その数を上

回る永遠の悲しみが存在することを私たちは忘れ

てはならない。

その一方で、教師側の授業実施に対する負担や

不安感(事故の危険性、指導能力、生徒の泳力差

などが起因)にも目を向ける必要もある。

高度経済成長とともに急速にプールの建設がな

された歴史を振り返れば、昨今ではプールの老朽

化とその予算が課題となっている。それらの事由

から学校が水泳を実施するうえで、市民プール等

の共同利用や民間スイミングクラブへの指導委託

にも注目が集まっている。

オーストラリアの取り組みを好事例と捉え、水

に親しみ、生涯を通じて健康、安全を確保してい

く能力を養うためには、児童・生徒が水辺におい

て自分の命を守れるという実感に連動するような

カリキュラムマネジメントが重要である。

日本でも省庁や民間団体の枠組みの中でそれぞ

れに「水の事故」に関するデータや啓発を実施す

るに留めるのではなく、日本の溺水の現状と課題

をより明確なものとし、国として溺水事故防止の

ための戦略的事業(予算化)に位置づけ、取り組

む必要がある。その一環に、誰もが水と関わる

導入(水泳授業)において、各学齢期に何を学ば

せていくことが重要なのかというフレームワーク

を協議し、さらにはそれを機能させる制度設計(学

校と他団体連携の促進)が求められる。

7. おわりに

JLA では、子どもたちが水辺の事故防止の心構

えや、安全のための知識と技能を身に付け、楽し

く活動できることを願い、ICT教材を制作した(図

-14、図-15)。小学校・中学校の新学習指導要領に

沿い「水泳運動の心得」や「安全確保につながる

運動」、「水辺の事故防止に関する心得」などへの

実践的理解を深められるような構成となっている。

主に学校教育において、電子黒板や PC・タブレ

ット端末等を使用し、主体的・対話的な学びを促す

ことをねらいとしている。プール活動や体験活動

の事前指導、総合的な学習の時間など、水辺の安

全教育に幅広くご活用いただければ幸いである。



図-14 e-Lifesaving (無料)



図-15 指導者向け研修動画

(YouTube)

謝辞: 日本子ども安全学会においてこの度の機会

を賜りましたことは、一保健体育教師として水辺

の安全、教育を通じて、今後の課題を見つめ直す

機会となりました。理事長の小佐井良太教授、(一

財) 吉川慎之介記念基金の吉川優子代表理事はじ

め、「e-Lifesaving」開発に際し、助成下さってい

る(公財) 日本財団、制作協力(株)「学研みらい」

の方々に深甚なる謝意を表します。

参考資料・文献

1) World Health Organization:「Global report on

drowning Preventing a leading killer」P50-59

2) 厚生労働省:人口動態調査 日本における不

慮の事故(溺水等)統計

3) 警察庁生活安全局生活安全企画課:令和2年

夏期における水難の概況

4) JLA:パトロール統計報告書 サマリー2019

5) 海上保安庁:平成29年海難の現状と対策P15

6) JLA:2020年の学校や家庭における「水辺の

安全教育」と「事故防止」

7) 文部科学省:テーマ2 体育・保健体育の授

業の充実、分析結果P21

8) 佐藤友希・池田拓人:小学校体育における水

泳授業の実態に関する研究-目標・内容・方法

に着目した課題の抽出

9) 文部科学省:【体育編】小学校学習指導要領

(平成29年告示)解説 【保健体育編】中

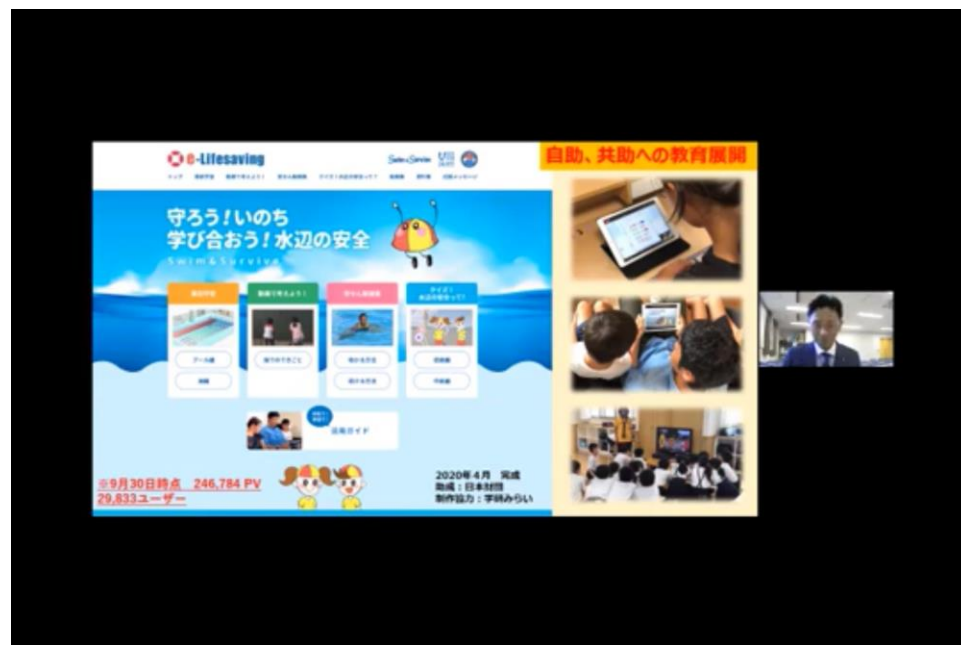
小学校学習指導要領(平成29年告示)解説

10) AUSTRALIAN WATER SAFETY COUNCIL:2016-2020

AUSTRALIAN WATER SAFETY STRATEGY

2016-2020

5, e-Lifesaving に関連する学会報告及び講演会 ④



西条市 子ども安全セミナー 2020年10月25日 (日)

～e-Lifesavingの開発と実践から水辺の安全教育を考える～

西条市

みんな
子どもを
守ろう。

場所: webと会場のハイブリッド形式で行います

2020 10/25日
13:00-16:00

子ども安全セミナー 無料

水遊びやアウトドア、部活に体育や図工の授業...子どもたちを取り巻くあらゆる場面に、さまざまなリスクが潜んでいます。今のあなたは、子どもを事故から守れるでしょうか。子どもの安全に関する知識と事故未然防止策を知り、現場で子どもたちのために活かすため、第一線で研究・活動する講師のお話を聞いてみませんか？

「学校のリスクを見える化する：スポーツ障害から教育問題まで」
名古屋大学大学院准教授 内田 良氏

「e-Lifesavingの開発と実践から水辺の安全教育を考える」
成城学園中学校高等学校 保健体育科教諭 日本ライフセービング協会副理事長 松本 貴行氏

「感染症対策について」 西条市消防本部 瀬尾 啓次氏

対象 保育園・幼稚園・小学校などで子どもに関わる職員、一般の保護者、地域の方

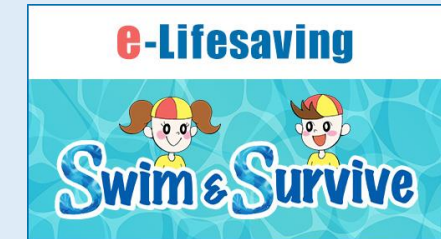
場所 会場：西条市地域創生センター 3 階 大研修室 (定員 30 人)
web：オンライン会議ツール Zoom (定員 50 人)

申込 HPで本セミナーのページをご確認後、FAX かメールでお申込ください。
西条市地域創生センター Tel 0897-52-5156
Fax 0897-47-5156
メール chikisosei@saijo-city.jp 詳細はこちら

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、体調不良の方、過去 2 週間以内に感染を引き続き拡大している国や地域への訪問歴がある方の来場はご遠慮ください。会場参加の方は、消毒やマスク着用等のご協力をお願いします。

主催：西条市 共催：愛媛大学地域協働センター西条 後援：一般社団法人吉川博之介記念基金、NPO 法人 Love & Safety おおむら、Love & Safety さいじょう

6, e-Lifesaving の現状



バナー依頼予定一覧 (SNS発信含む)

- ・ 日本財団 海と日本プロジェクト
- ・ 水泳連盟
- ・ トライアスロン連合
- ・ 川に学ぶ体験活動協議会
- ・ 河川財団
- ・ 海さくら
- ・ 子どもたちにライジャケを!
- ・ 吉川慎之介記念基金
- ・ 海上保安庁 Water Safety Guide
- ・ 文部科学省
- ・ 気象庁
- ・ 消防庁
- ・ スポーツ庁
- ・ 消費者庁
- ・ 学研みらい
- ・ JLA各都道府県協会、及びクラブHP
- ・ 各都道府県における海水浴場案内ページ
- ・ 他、関連団体

2021年3月 トップページ

助成：日本財団

制作協力：学研みらい

6-1 事前学習①

プール授業の前のガイダンスとして利用できる！



プール活動の事前指導として活用。
事故を未然に防ぐことへの思考を育てる。

★新学習指導要領

小「水泳運動の心得」
中「健康、安全の心得」

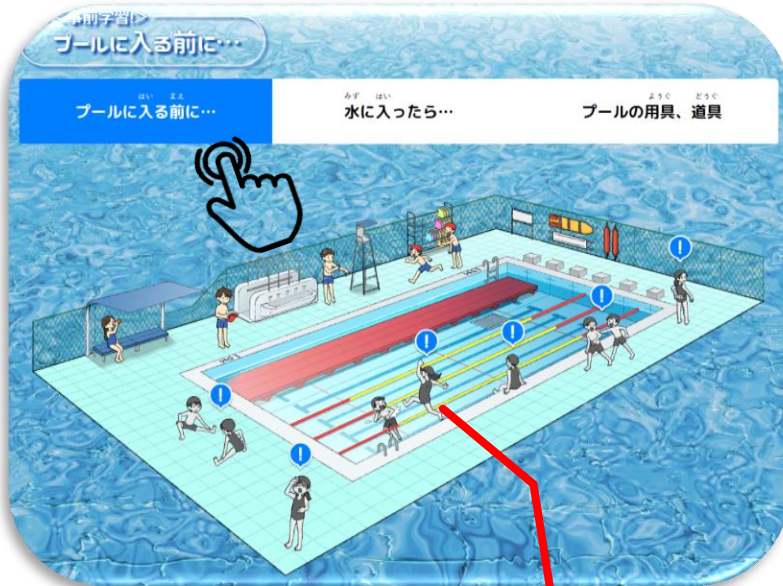
プール編

～ライフセーバーが監視救助活動をする中で、起こりやすい事象を取りまとめたもの～

プールに入る前に…

水に入ったら…

プールの用具、道具



プールサイドからのプールへのジャンプは、人が下に
いたときに重大な事故につながるため、絶対にしては
いけません。

全10項目



水 中での活動を行うときは「バディ」が大切です。おた
がいを守り合うのがバディの役目です。



全8項目



水 中から出られなくなるおそれがあるので、遊具や
フロア台の下にもぐってはけません。



全9項目

海 編

2020
New!

～海水浴用場における安全の心構えを身に付けよう～

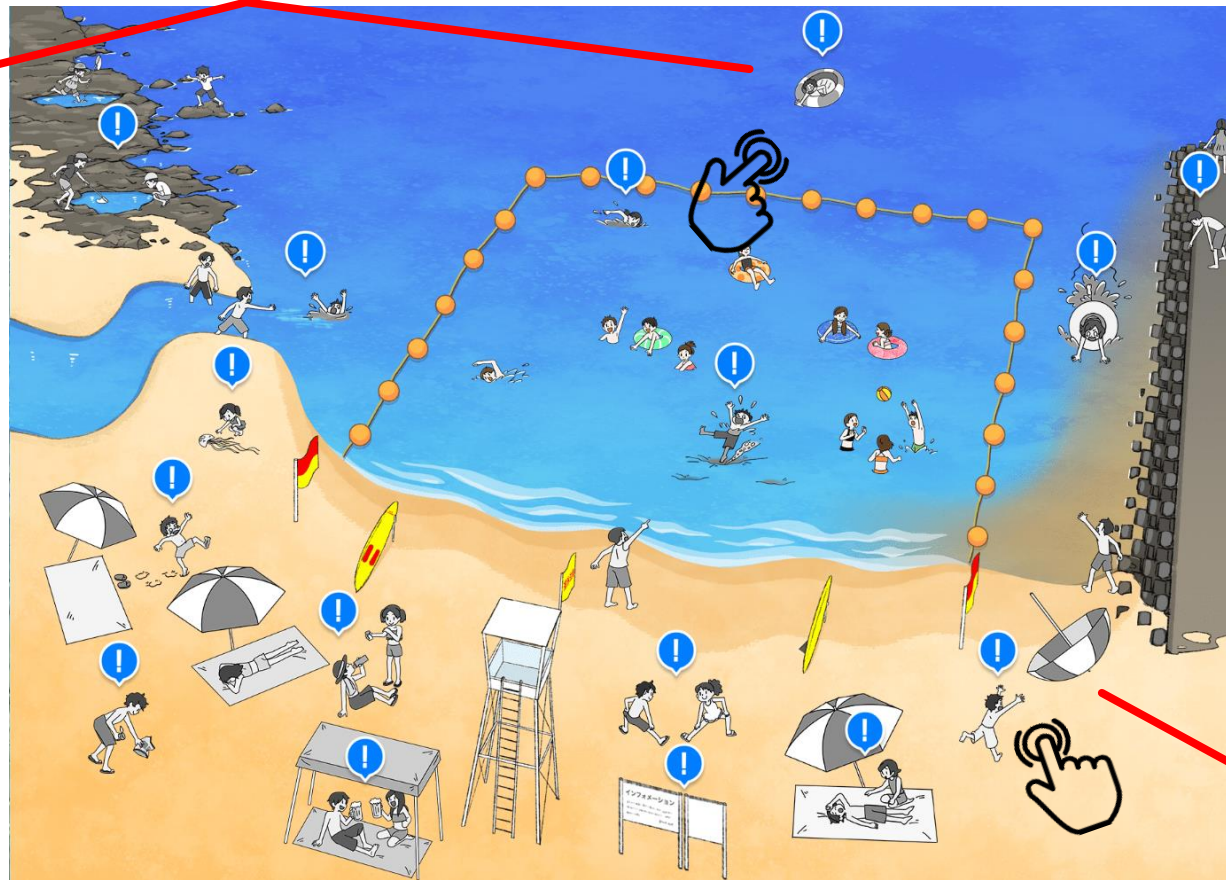
起こり得るリスクから、実践的な回避方法を学び、海岸利用における安全の自立を目指すことがねらい

※学習指導要領「水辺活動」

大きなうき具は風の抵抗を受けやすいので、うき具を使う際は風に流されないように注意しましょう。もし、陸からの風によって、うき具だけが沖に流されてしまっても、無理に追わないようにしましょう。追っている途中で体力がなくなっておぼれたら大変です。



風が強い日にはパラソルやテントが飛ばされる恐れがあり、周りの人に当たってしまったら大変危険です。パラソルは風上にやや倒し、砂の中に深くさしこんだら、重しを結んで飛ばされないようにしましょう。



想定（設定）されているリスクは全16項目

～ライフセーバーが監視救助活動をする中で、起こりやすい事象を取りまとめたもの～

6-1 事前学習③

川 編

～川における安全の心構えを身に付けよう～

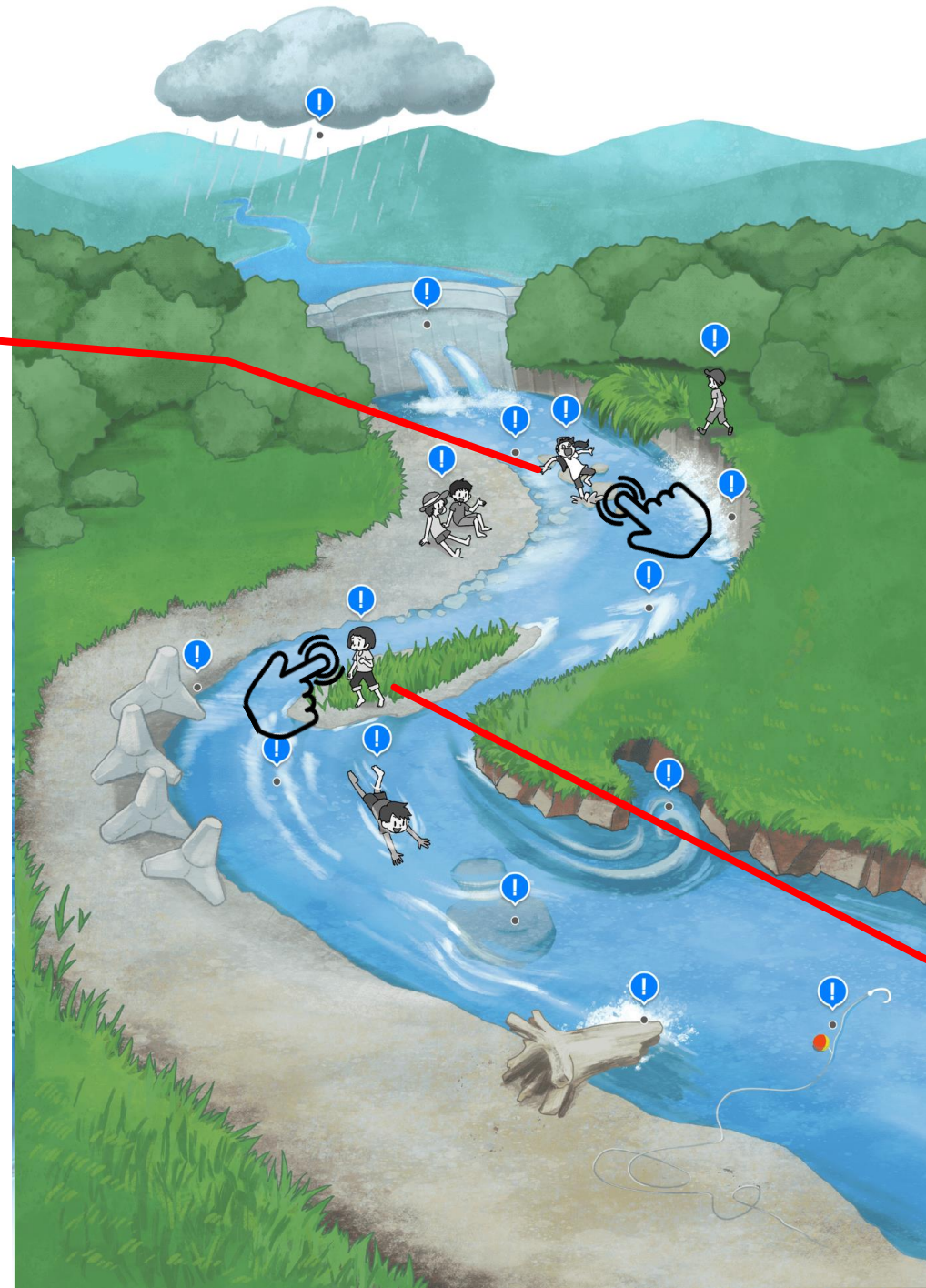
かわぞこ いわ しょうがいぶつ おお なが ばや せ
川底に岩などの障害物が多くある流れの速い瀬で
なが なか た かわぞこ あし む
は、流れの中で立とうとしたり、川底に足を向けた
りすると、岩のすき間に足をはさまれる危険性があ
とく きゅうりゅう
ります。特に急流では、フットエンタラップメント
あし いし あいだ かわ つよ ちから
(足が石の間などにはさまれたりして、川の強い力
お すい きげん
に押されて水ぼつしてしまうこと)の危険もあります。



フットエンタラップメント



2020
New !



起こり得るリスクから、実践的な回避方法を学び、海岸利用における安全の自立を目指すことがねらい

※学習指導要領「水辺活動」

なか す あめ かわ みず ふ すい
中州は、雨などにより川の水が増えると水ぼつする
かのうせい かわざし
可能性があり、川岸にもどれなくなってしまうこと
ちゅう い
もあるので注意しましょう。



想定（設定）されているリスクは全16項目
～制作協力：公益財団法人 河川財団～

6-2 みんなで考えよう① ～あらすじ～

「海でのできごと」

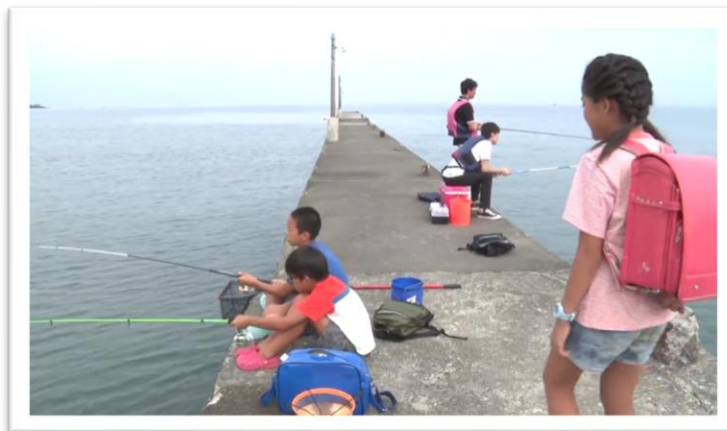


バトちゃん

まずは6分19秒
の動画を通して
見てみよう！



ある日、小学生達が放課後に桟橋で釣りを楽しんでいました。桟橋の奥には大学生2人がいます。今日はなかなか釣れません。そこへ女の子が遅れて様子を見にやってきました。



まずは^{ぜんたい}全体^{とお}を通して^み見てみよう！

ある^{なつ}夏^ひの^{うみ}日^みの、海でのできごと。
どんな^{まけん}危険^{かんが}があるか、^み考えながら見てみよう。



はやと君は桟橋から魚の影を追って網で捕まえようとします。夢中になって追いかけるあまり海へ落ちてしまいます。



桟橋では、はやと君を助けようと、学校で習った“ペットボトル救助”等を試みますが、うまくいきません。



桟橋にいた大学生の正しい“ペットボトル救助”にはやと君は助けられますが、今度はもう一人のライフジャケットを着た大学生が…



女の子は走ってライフセーバーに伝えに行きます。2人のライフセーバーは、はやと君と大学生の救助に向かいます。

6-2 みんなで考えよう②

～設問と解説～

「海でのできごと」

次に2つ目の動画を見てみよう。
同じ動画の中に11の設問があるよ。
考えたり、意見を出し合ったりした
後は、解説を見て学びを深めよう！



学習のポイントは11個！

すべて解説付き！



まずは全体を通して見てみよう！

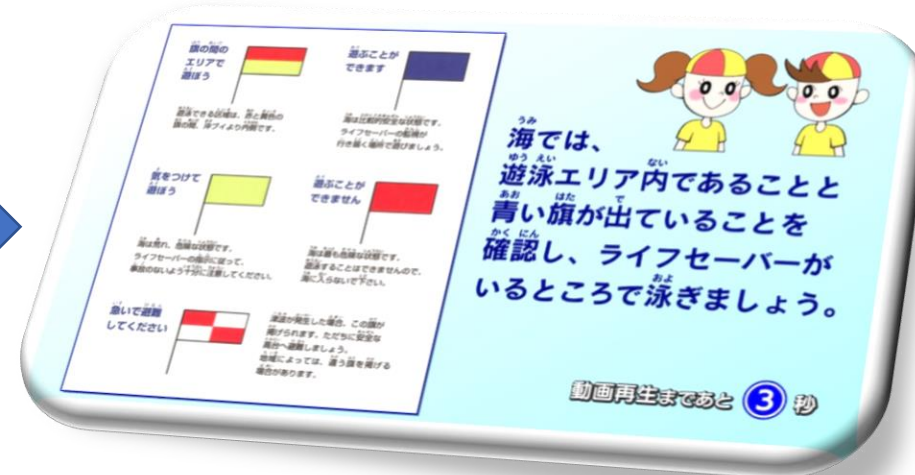
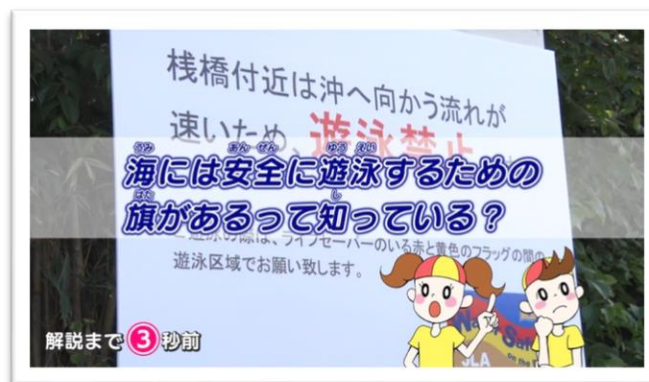
ある夏の日の、海でのできごと。
どんな危険があるか、考えながら見てみよう。



次に動画を見ながら考えよう！

動画の中の大切なシーンをチェック。

見たあとは、下の「学習のポイント」も確認しよう。



※動画を流していると自動で設問がでてきます。
適時、停止、再生ボタンを押しながらご活用下さい。

6-2 みんなで考えよう③



「海でのできごと」

溺れている人に対し、掴まれるものを差し出す救助方法が「リーチ」です。

溺れている人は、差し出された物に対してものすごい力でつかまります。救助者が水中に転落することなく、差し出したものを離さないようにするために、腹ばい姿勢になると安全です。



～指導される方へ～

学習のポイント

～指導上の留意点～

動画のチェックポイントは、どのような問題があったのかを見ていきます。

内容を確認できたら、以下の点も補足しましょう。

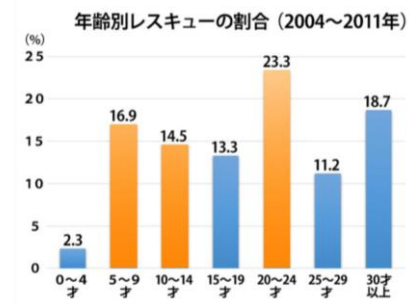
うみ、じょうきょう 海の状況 うみ、とておだやかな海だね。 いつも同じかな？	うみ、えい 遊泳エリア うみ、あんぜん、ゆうえい 海には安全に遊泳するため はたの旗があるって知ってい る？	ばし、きけん、ばし さん橋で危険な場所 ばし、さん橋で、とくに危険な ばし、場所は、どこかな？	うき、つか、もの うき具として使える物 は？ がめん、なか、もの この画面の中の物で、うき 具として使える物はどれか な？
おち、どう思っていたのかな とき、ばし、ふたり この時、さん橋にいる2人 きも、の気持ちは？	リーチとは つかまることのできるもの さ、だ、を差し出すときに、安全な しせい、姿勢は？	スローとは ペットボトルは、どうして とお、と、速くまで飛ばなかったんか らう？	うき、と、 うきものを受け取ったら うき、と、 ペットボトルを受け取った ら、どんな体勢になればい いかな？
ライフジャケット ライフジャケットを着てい るのに、どうしておぼれそ うになっているの？	ライフセーバー ライフセーバーって、どう いう人が知っている？	おぼれる原因 うみ、おぼれるおもな原因っ てなんだろう？	

「指導される方へ」をタップすると、画面が変わります。子どもたちへの「指導上の留意点」が記されています。指導される方は事前にココを読んでおくことをおすすめします！



ライフセーバーによるレスキューの割合を年齢別にみると、20代前半と小・中学生の子どもに事故が多く発生しています。

海で何かあった際には、自分たちだけで何とかしようとせず、迷わずライフセーバーに伝えることが大切です。





「話し合ってみよう」

話し合ってみよう

動画から学んだことを参考にして、話し合いで学習を深めよう。

海水浴に行くとき、安全に楽しく過ごすためには、どのような事前準備が必要でしょうか。

海で遊ぶとき、どのようなことに注意しながら活動することがのぞましいでしょうか。

海や川などで起きる水の事故を減らすための標語を、考えてみましょう。

「海でのできごと」を見て学んだことを参考にして、話し合いをしてみよう。

海で遊ぶ上での“そなえ”となる実践的な知識を身に付けるためには、想像することや他の人の経験談を聴くことも大切だよ！



バトちゃん



6-2 みんなで考えよう⑤ ～あらすじ～



2020
New !

「離岸流って？」

夏のある日、家族で海水浴を楽しんでいました。その日は風が強く吹いており、パラソルやボールが飛ばされてしまうことも・・・



まずは6分21秒
の動画を通して
見てみよう！



まずは全体を通して見てみよう！

ビーチボールで遊んでいたら、風に流されてしまいました。
ボールを追いかけると、そこは離岸流でした。どんな危険があるか、考えながら見てみよう。



かいち君は風で流されたビーチボールを泳いで取りに行ってしまう。追いかけた先は沖への流れに続く離岸流だったのです。



両親が必死で戻るように声をかけますが、必死に泳ぐかいち君には届きません。そこにライフセーバーが来て救助へ。



ビーチボールを追いかけることをあきらめたかいち君。離岸流の流れに逆らって懸命に泳ぎ、浜へ戻ろうとしているところにライフセーバーが。



かいち君はライフセーバーに助けてもらったお礼と、自分が泳いでもなかなか戻れなかったことを話すと、ライフセーバーは…



「離岸流って？」

2020
New !

次に2つ目の動画を見てみよう。
同じ動画の中に9の設問があるよ。
考えたり、意見を出し合ったりした
後は、解説を見て学びを深めよう！



学習のポイントは9個！

すべて解説付き！

離岸流ってなに？

指導される方

「離岸流ってなに？」

まずは全体を通して見てみよう！

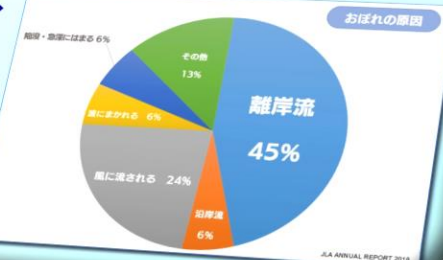
ビーチボールで遊んでいたら、風に流されてしまいました。
ボールを追いかけると、そこは離岸流でした。どんな危険があるか、考えながら見てみよう。

動画を見よう！

次に動画を見ながら考えよう！
動画中の大切なシーンをチェック。
見たあとは、下の「学習のポイント」も確認しよう。



離岸流とは、沖に向かう流れのことで、海水浴場におけるおぼれ事故の原因の約半数をしめます。
ライフセーバーはいち早く救助に向かう手段として、この離岸流を利用することがあります。



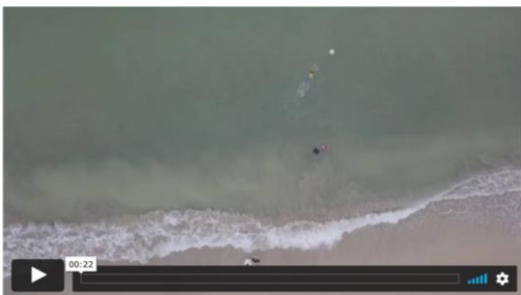
※動画を流していると自動で設問がでてきます。
適時、停止、再生ボタンを押しながらご活用下さい。

「指導される方へ」をタップすると、画面が変わります。子どもたちへの「指導上の留意点」が記されています。指導される方は事前にココを読んでおくことをおすすめします！



「離岸流ってなに？」

沖へ流れたビーチボールやフロートを取りに行く行為は、大変危険であることを理解させてください。たとえ追いついたとしても、手はふさがり、脚しか動かすことができない中、浜へ戻ってくることは困難であるを知り、“無理に追いかけない”と判断できるようになってもらいたいと思います。



学習のポイント

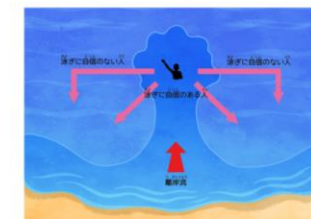
～指導上の留意点～

動画のチェックポイントは、どのような問題があったのかを見ていきます。

内容を確認できたら、以下の点も補足しましょう。

あんだん、あそ、うみ、つ 安全に遊ぶために海に着いたらまず何をしたらよいかな？	ひ、かぜ、じょうたい この日の風の状況から、どのようなことが考えられる？	と パラソルが飛ばされるとどんなことが起こるかな？	りがんりゅう、なに 離岸流って何？
もしもビーチボールにたどり着いていたらどうする？	りがんりゅう、なが 離岸流の流れってどれくらい速いの？流れはどこまでつづいているの？	りがんりゅう、あ、お 離岸流を見分けるにはどうしたらいいの？	あのビーチボールはどうなってしまうの？
うみ、はい、また、か、せき、ともだち 海に入る前に家族や友達と約束事を！どんなことが考えられるかな？			

実験映像を通じて正しい理解を深めましょう。離岸流（リップカレント）は、リップヘッドで流れが拡散するので、パニックを起こさず（Don't Panic）、落ち着き（Stop）、考え（Think）、行動する（Act）ことを心掛けるよう伝えてください。 ※離岸流については事前学習【海編】、クイズ【上級編】で詳しく学ぶこともできます。



「話し合ってみよう」

話し合ってみよう

動画から学んだことを参考にして、話し合いで学習を深めよう。

海水浴場において、海に入る直前にしておくとい
い心構えやそなえ行動をみんなで確認し合いましょ
う。

離岸流にはどのような危険があるのか？また危険
を避けるために離岸流の見分け方や、離岸流に流
されてしまったとしたら、どのような行動をとるべ
きかをみんなで考えてみましょう。

海浜で安全に楽しく過ごせるための効果的な「ピク
トグラム」を考え、作成してみましょう。

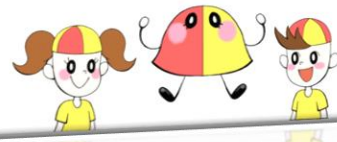
「離岸流ってなに？」
を見て学んだことを参
考にして、話し合いを
してみよう。

海で遊ぶ上での
“そなえ”となる実践的
な知識を身に付けるた
めには、想像すること
や他の人の経験談を聴
くことも大切だよ！



バトちゃん

2020
New !



6-3 動画で学ぼう！①

安全なプール活動

「安全なプール活動」では、
6点の動画が解説付きで見れるよ！

学習指導要領にある「**水泳運動の心得**」についての学びを深め、プール活動が始める上でのガイダンスとしても利用できるよ！



安全に活動するために

パディ



水辺で活動をするときは、常に二人組で安全を確認しあう



あんぜん かつどう
安全なプール活動

たす ほうほう
助かる方法

たす ほうほう
助ける方法

じっけんどう が
実験動画



あんぜん みず はい かた
安全な水への入り方

スライドイン



あんぜん みず はい かた
安全な水への入り方

スリッピン



あんぜん みず はい かた
安全な水への入り方

ステップイン

この動画は授業における児童、生徒に実施させることを推奨しているものではありません。先生方や指導者がプール内の異常等に気づいた際、安全かつ迅速に入水する方法の一つとして紹介しています。



あんぜん みず あ かた
安全な水からの上がり方
ひとり あ ばあい
1人で上がる場合



あんぜん かつどう
安全に活動するために
パディ



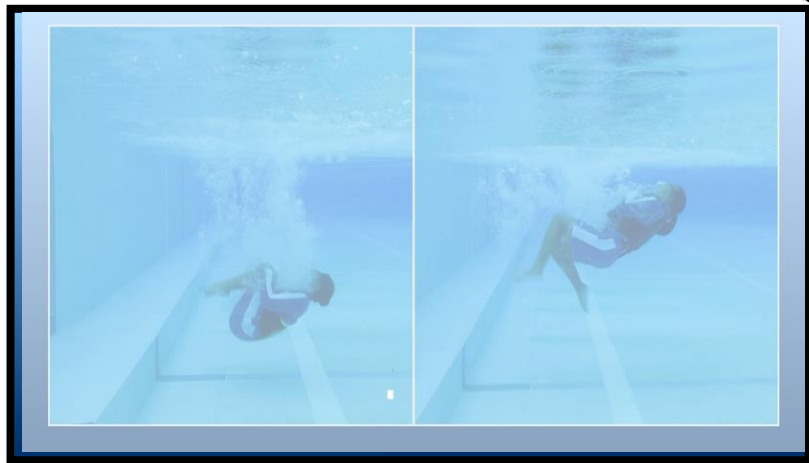
あんぜん みず はい かた
安全な水への入り方

ストライドイン

この動画は授業における児童、生徒に実施させることを推奨しているものではありません。先生方や指導者がプール内の異常等に気づいた際、安全かつ迅速に入水する方法の一つとして紹介しています。

6-3 動画で学ぼう！②

助かる & 助けるテクニック



たす ほうほう 助かる方法		たす ほうほう 助ける方法			
	浮く① 基本姿勢		浮く② 応用姿勢		浮く③ 落水からの浮き身
	浮く④ 長く浮いていられる方法		浮く⑤ 長く浮いていられる方法		ライフジャケットの正しい着方
	ライフジャケットの有無による落水のちがい		水中でのライフジャケットの着方		体力の消費を節ぐ安全な泳ぎ方
	立ち泳ぎ		キックボードクルージング		ボート転ぶく時の救助を待つ方法
	スカーリング/巻き足		スカーリングを上達させるために		レスキューチューブを渡されたら
	複数人で救助を待つ方法①		複数人で救助を待つ方法②		ハドルポジション
	複数人で救助を待つ方法③		複数人で救助を待つ方法④		複数人で救助を待つ方法⑤

水辺での安全テクニックや溺れないための方法を動画を通じて理解を深める。

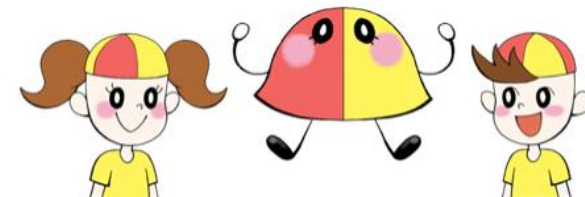
★新学習指導要領

小「安全確保につながる運動」
中「水辺の事故防止に関する心得」

「助かるテクニック」では、15点の動画が解説付きで見れるよ！

「Swim&Survive」の具体的な方法をまずは頭でイメージすることが大切なんだ。

水の中の様子もわかるから、是非実技で挑戦してみてね！



助かる&助けるテクニック

水辺での安全テクニックや溺れないための方法を動画を通じて理解を深める。

★新学習指導要領

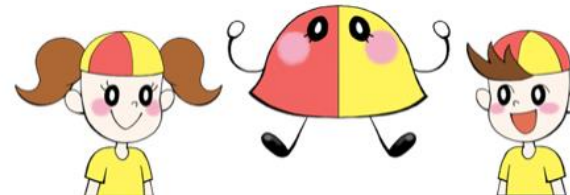
小「安全確保につながる運動」

中「水辺の事故防止に関する心得」



「**助ける**テクニック」では、6点の動画が解説付きで見れるよ！

万が一、溺れている人を発見した時、水の中に入らないで助けることが鉄則。ライフセーバーの救助技術の中から、みんなにも知っておいてもらいたいことを選んで紹介しているんだ。



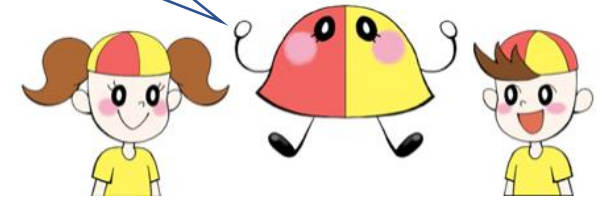
6-3 動画で学ぼう！④

実験動画



「実験動画」では、リアルな危険や現象を可視化することで、より正しい理解を深めることにつながるんだ。これからもっと増えていくよ！

2020
New !



6-4 クイズ！水辺の安全って？

2020
New!
上級編

10問正解すると・・・



プールや海における安全に関する知識や、事故防止策を軸としたクイズだよ。今までの学びを確認しながら、新しい知識も得られるから、是非挑戦してみてね！



6-5 資料集

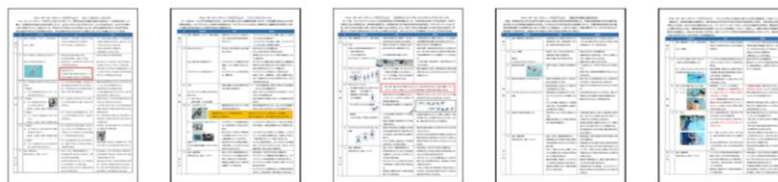


事前学習 みんなで考えよう！ 動画で学ぼう！ クイズ！水辺の安全って？ **資料集** 応援メッセージ



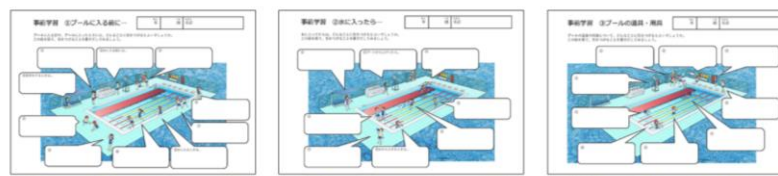
指導案

ウォーターセーフティプログラム



①ビート板クルージング ②ライフジャケット ③浮き方とライフセービングバックストローク ④着衣泳体験と着衣浮き ⑤ペットボトル浮きと水に入らない救助法（スロー）

ワークシート



事前学習シート ①プールに入る前に... (1枚) 事前学習シート ②水に入ったら... (1枚) 事前学習シート ③プールの道具・用具 (1枚)



事前学習シート 海編 (2枚) 事前学習シート 川編 (2枚)

2020
New !

【その他資料】

ライフセービングに関連する資料、資格のことについてやテキスト、動画などがラインナップしてあります。子ども達の興味関心をさらに深めることができます。

授業等で活用できる資料や映像がたくさん！是非、活用、視聴してみてくださいね！



【指導案】

指導される方がプログラムを構築する上で参考となるウォーターセーフティの指導案がPDFで引き出せるようになっています。主に小学校や中学校の水泳授業などで活用できます。

- ①ビート板クルージング
- ②ライフジャケット
- ③浮き方とライフセービングバックストローク
- ④着衣泳体験と着衣浮き
- ⑤ペットボトル浮きと水に入らない救助法（スロー）

関連資料

※以下は、外部のウェブサイトに掲載します。よろしければクリックしてください。



2020
New !

6-6 応援メッセージ



事前学習

みんなで考えよう！

動画で学ぼう！

クイズ！水辺の安全って？

資料集

応援メッセージ



親から子へ、子から孫へ、何世代も引き継がれてきた私たち日本人の海への想いが、近年、海難れという形で崩壊しかけています。海に行きたくないという気持ちも、海に抱く消極的なイメージも、子どもの頃の原体験が強く影響していると考えられます。海辺で怖い思いをした子どもたちが、海を好きになれるはずがありません。子どもの水難事故が毎年多発する中、子どもたちが安心して海を楽しむために、水辺の安全教育を浸透させることは、日本人の豊かな海への関わりを導くことでしょう。子どもの未来、海の未来を守るため、今後も日本ライフセービング協会の活動を応援して参ります。

公益財団法人 日本財団
常務理事 海野 光行

※JLA e-Lifesaving ~Swim&Survive~は子ども達への水辺の安全 ICT教育プログラムとして、日本財団 (<https://www.nippon-foundation.or.jp/>) の助成により開発されました。

＜五十音順＞



日本水泳連盟は、水泳の普及目標を「国民皆泳」と位置づけています。日本の国民全員が泳げるようになり、健康保持・増進を図るとともに、泳げないことで命を落としたり、溺れている人を助けられないことがないようにという、とても大きな目標です。泳げることは自分の命を守ること、そして他人の命を救うことに繋がっています。多くの子供たちが水辺の安全教育に触れ、正しい知識と技能を身に付けることは素晴らしいことです。日本から水難事故がなくなることを願っています。

公益財団法人日本水泳連盟
会長 青木 剛



私も公益社団法人日本トライアスロン連合では、全国の約37.5万人のトライアスロン愛好者のために各地で年間350近くの大会・事業を開催しています。1974年に誕生したトライアスロンはスイム・バイク・ランを続けて行う競技です。中でもスイムではライフセーバーの皆様のご協力をいただきながら、水の事故や怪我が発生しないよう安心安全な大会運営を心掛けていますが、様々な自然条件で行われる競技のため、各参加者が自分自身の体調と向き合い、心身共に万全の準備をした上でレースに参加することをお願いしています。それには、まず正しい知識を身に付けることが大事です。これからの若い選手や愛好者の皆さんが、泳ぐ際に知っておくべき事柄を本教材できちんと学んでいただくことを期待します。

公益社団法人日本トライアスロン連合
会長 岩城 光英



RAC (NPO法人川に学ぶ体験活動協議会) では長年に渡り、川で安全に且つ楽しく活動できるよう行政とも連携しながら川の指導者を育成してきました。それら全国約4000名の指導者が、それぞれの地域の川で活動を行っています。しかしながら、毎年、夏場になると悲しい水難事故のニュースが聞こえてきます。川で遊ぶ時に川の安全管理を知っていれば事故は防げたかもしれません。ライフジャケットの着用もその一つで、RACではその普及に努めています。また、川での安全管理ができる指導者の育成、各地域での水辺の安全講習などを展開して参ります。川は正しく安全に管理をすればとても素晴らしい学びのフィールドです。1人でも多くの人たちが川で楽しんで活動をしていただければと思っています。

NPO法人 川に学ぶ体験活動協議会
代表理事 久住 時男



我が国の水泳教育は、泳げる技能に力点が置かれてきました。海外の水泳教育は、まずは溺れない技能に焦点をあて、事故防止の為にセルフサバイバル教育に力を注いでいます。今日、文科省「学習指導要領」では、自然との関わりを深める「水辺活動」への広がりを謳い、着衣泳等の自助安全を導入しています。一方、東日本大震災（大津波）や、近年の自然災害のエネルギーを鑑みれば、これまでの安全基準をはるかに超える備えは自明です。救急教育学を専門とする立場より、その生命倫理の根拠は「生き抜く力」です。つまり危機本能の主体性です。本教材はその主体性を育むに相応しい理念と実践です。自助、共助、そして公助への展開・発展を願っています。

中央大学
教授 博士（救急救命学） 小峯 力



水泳は命を守ることができるスポーツです。日本では多くの学校にプールが整備され、水泳の授業は必ず受けることになっています。学校での水泳の授業を通して、全ての国民に泳ぎをマスターしてほしいと思っています。その上で、プールでの水泳だけでなく、海や川などの自然とのふれあいの中で、安全に楽しく泳いだり、遊んだりすることができるよう、水辺での事故を防止するための知識や技能を身に付けることが大変重要です。この教材を用いて、緊急時に行うべき行動などを学ぶことで水辺の安全確保が図られ、一人でも多くの子供たちの命を守ることにつながることを願っています。

初代スポーツ庁長官 鈴木 大地



河川財団では、子どもたちが伸び伸びと川に触れ合うことができる体験活動への支援や河川や水に関する河川教育の普及に取り組んでおります。私たちの身近にある川は、自然がいっぱいで大変魅力的な空間です。そして、遊びの場でもあり、学びの場でもあります。しかしながら、水辺のシーズンになると繰り返されるのが水難事故です。水に関わる子どもの事故の多くが川や湖で起こっています。この水難事故を未然に防ぐためには、川や水辺に潜む様々な危険性を知り、事前の準備と、活動時の安全管理を怠らないことが極めて重要です。川や水辺での活動をより安全で楽しいものとするために、保護者・団体・学校関係者など、より多くの方々に活用いただける教材や情報の提供に努めてまいります。

公益財団法人 河川財団
理事長 関 克己



「ライフジャケット」が、水辺の子どもたちを見守る時のアタリマエの選択肢の1つになることを願って、ひたすら発信を続けています。活動を続けてきて感じているのは、怖いのは「知らない」ということ。安全性を飛躍的に高める「ライフジャケット」のことや、水辺の安全について、みんなが学ぶことができれば、水辺の事故のほとんどは予防することができる・・・と信じています。守ることができる命があります。この素晴らしい教材が多くの学校や家庭で活用され、子どもたちにとって水辺が安全で楽しい場所になることを心から願っています。思いはただ1つ・・・子どもたちの命を守ること。

「子どもたちにライフジャケットを！」
代表 ライフジャケットサタ 森重 裕二



NPO法人海さくらは、2005年から「目指せ！日本一楽しいごみ拾い」を合言葉に神奈川県江の島を中心に活動しております。2017年に江の島片瀬浜に「釘のない海の家」を海と日本プロジェクトの一環で日本財団様と共に建築し、海岸の釘を減らし、浜全体で安心安全な海にしようとする活動の中心的な役割をはたすようになってきました。その中でJLAの皆様と共に活動する機会も増え、色々と活動を共にさせていただいております。これからも、皆様と力を合わせ、海に笑顔が広がるように活動していきたいと思っています。全力でいきたいと思います！！

NPO法人海さくら
理事長 古澤 純一郎
公式ホームページはこちら



私の息子の慎之介は、幼稚園のお泊り保育で行われた水遊び中に、川の増水によって流され亡くなりました。私たちは、事故の教訓をいかすための活動を続けています。悲しい事故を防ぎ、子どもたちに豊かな経験をさせてあげるためには、予防についての正しい情報や知識を共有することが重要です。予防と安全を理解することは、命を守ること=生きる力を身につけるための大切な学びであり、子どもの可能性を広げることでもあるのです。水辺には、楽しい体験や学びが沢山あります。大人も子どもと一緒に、水辺の活動を通じて、成長へのチャレンジを重ねてほしいと思います。水辺の事故ゼロをめざして。日本ライフセービング協会の活動を応援します。

一般社団法人吉川慎之介記念基金
代表理事 吉川 優子



海やプールは、子供たちにとって最高の遊び場です。誰もが笑顔になれるこの水辺は、我々の生活の中でも身近にあるものです。しかしながらこの水辺では、残念ながら命を落としてしまうほどの事故につながることもあります。こういった事故を未然に防ぐために必要なことは、水辺の危険について知っておくことが重要であり、この知識を持った上で水辺でのさまざまな体験を踏まえて生きる力を身につけることが最も効果的になります。我々日本ライフセービング協会は、理念を共にする様々な団体様と共に、水辺の安全に関する教育を正しく広めると共に、水辺の事故ゼロをめざした活動を続けてまいります。

公益財団法人日本ライフセービング協会
理事長 入谷 拓哉

※水辺の尊さとその安全についての願いをメッセージとしてお寄せいただきました。指導される大人の方々の心構えやモチベーションとして、大変学び深いものです。今後もさらにその輪を広げていきたいと考えております。

7, e-Lifesaving の制作計画

制作Stage	e-Lifesaving 制作計画	周知、連携	目標達成値
Stage1 (2019)	e-Lifesaving制作 事前学習（プール編）／動画で考えよう！（海でのできごと）／実践動画集（助かる、助けるテクニック）クイズ初級編、中級編／資料集／応援メッセージ	スポーツ庁 教育委員会への周知	
Stage2 (2020)	レスポンス対応／以下追加項目…事前学習「海編」「川編」／動画で学ぼう！「実験動画」／クイズ！水辺の安全って？「上級編」／資料集ワークシート「海編」「川編」／関連資料「ANNUAL REPORT2019」更新／海岸利用啓発ポスター／ジュニアライフセービングカルタ／水辺の安全ハンドブック、川遊び安全ノート「えんじょいリバー」／今すぐ授業に導入できる！水辺の安全教育（撮影、編集、YouTube動画掲載）／安全な川遊びのために（子ども向け）（指導者・保護者向け）／水辺の事故を減らすために、今できること／海さくらゴミ拾い～LIFESAVER BEACH CLEANの巻～／海なし県なのに海ゴミ対策！？／ライフセーバーが教える水辺の事故の防ぎ方／応援メッセージに各団体のHPリンク／「みんなで考えよう」離岸流動画、学習のポイント、指導される方へ	私学教員研修導入（東京都） コロナ禍でのオンラインセミナー実地 河川財団、吉川慎之介記念基金 連携協力 文部科学省HP掲載	3万ユーザー 25万PV【実績】
Stage3 (2021)	制作予定：「みんなで考えよう」118番通報！？／教えて！ライフセーバー Youtube制作 e-Lifesaving内資料集へリンク／「動画で学ぼう」118番通報（シミュレーション）／実験映像追加数点／各種資料集追加数点／応援メッセージ2～3名追加／各団体にバナー掲載の依頼／出張授業アポイントシステム試験運用／アンケート協力のおねがい／実践事例集積み上げ	海上保安庁連携（動画共同制作、Water Safety Guide掲載） スポーツ庁4月全国の学校対象とした通知内容に盛り込む スポーツ庁、消費者庁、海上保安庁SNSを通じた広報活動	20万ユーザー 160万PV
Stage4 (2022)	制作予定：「みんなで考えよう」この旗があがったら…（津波フラッグ）／事前学習（防災編）／ライフセーバーのいる海水浴場200か所紹介／水辺って楽しい！！～遊び方ガイド～／実験映像追加数点／各種資料集追加数点／応援メッセージ2～3名追加／クイズ！水辺の安全って？「防災編」出張授業アポイントシステムの本格運用（実践事例集とともに）	気象庁連携（動画共同制作）、 海上保安庁、スポーツ庁教育連携（全国の小中学校での授業展開）、実践事例を交えた広報	50万ユーザー 400万PV
Stage5 (2023)	制作予定：「みんなで考えよう」あなたならどうする？（応急手当～心肺蘇生とAED～）／事前学習（応急手当編）「動画で学ぼう」119番通報（シミュレーション）／「動画で学ぼう」BLS、AED音声ガイダンス、FA身近なもので助けよう／実験映像追加数点／各種資料集追加数点／応援メッセージ2～3名追加／クイズ！水辺の安全って？「応急手当編」	消防庁連携（動画共同制作）、 海上保安庁、スポーツ庁教育連携（全国の小中学校	100万ユーザー 800万PV

8, e-Lifesaving の完成イメージ

Stage3
(2021)

Stage 4
(2022)

Stage 5
(2023)

みんなで考えよう「字幕」「英訳機能」

みんなで考えよう「字幕」「英訳機能」

みんなで考えよう「字幕」「英訳機能」

YouTube動画→ e-Lifesavingリンク
「教えて!ライフセーバー」海編

YouTube動画→ e-Lifesavingリンク
「教えて!ライフセーバー」スポーツ編

YouTube動画→ e-Lifesavingリンク
「教えて!ライフセーバー」FA/BLS編

実験動画 + α

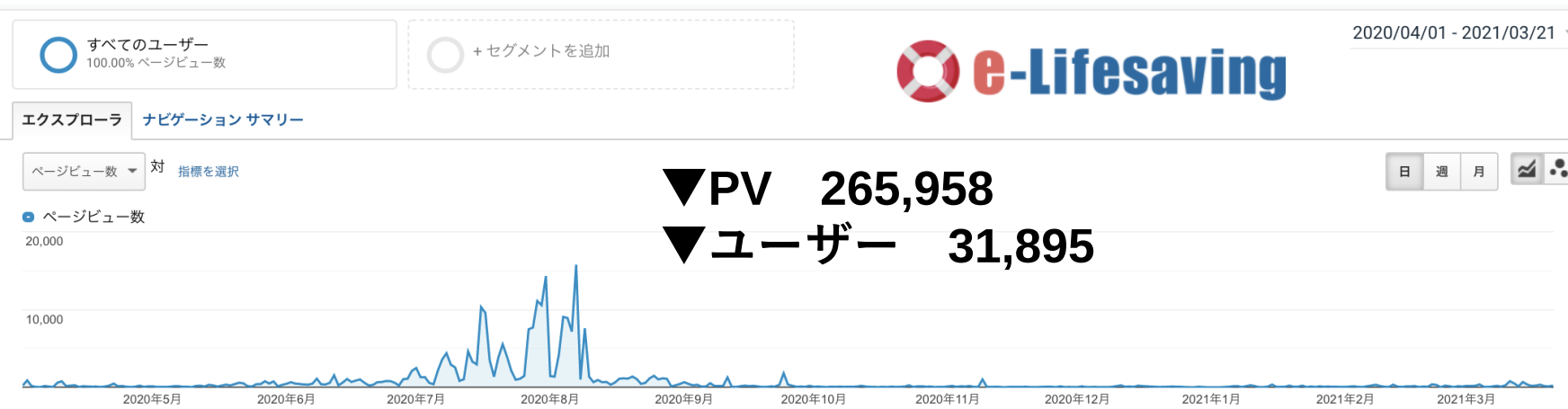
実験動画 + α

実験動画 + α

アンケート協力
のねがい

水辺って楽しい!
～遊び方ガイド～

9, e-Lifesaving の視聴分析①



- 4/9 e-Lifesaving公開告知 HP・Facebook・twitter・Instagram
- 4/15 公開告知メディア向けPR TIMESによるメディアリリース
- 5/21 YouTube・FB・twitter・InstagramへPR動画挨拶投稿
- 5/25 YouTube・FB・twitter・InstagramへPR動画学校編投稿
- 6/4 YouTube・FB・twitter・InstagramへPR動画友達編を投稿
- 6/13 YouTube・FB・twitter・InstagramへPR動画お家編を投稿
- 6/14 セミナー実施&FB投稿→取材受有 (NHK/朝日新聞/愛媛新聞/ビーパル)
- 6/19 神奈川県との包括協定記者発表
- 6/22 セミナーの募集告知Facebook投稿
- 6/28 セミナー実施
- 7/5 WEBソーシャルインベーションニュース掲載
- 7/6 7/5メディア掲載記事をFacebookへシェア
- 7/8 SUBARUライフセーバーカー引き渡し式でメディアへe-Lifesavingを呼びかけ
- 7/9 e-Lifesavingの活用事例をFacebookへ投稿
- 7/9 オンラインセミナーの募集告知をFacebookへ投稿
- 7/10 YouTube必見! 夏休み前に、今すぐ授業に導入できる! 水辺の安全教育 公開
- 7/13 神奈川県教育委員会 包括協定「教育」挨拶
- 7/14 都道府県ライフセービング協会・加盟クラブ・指導員へe-Lifesaving活用強化を通知
- 7/16 7/9 Facebookオンラインセミナー募集告知を広告シフト (~7/19まで)
- 7/17 他団体リリース【京都府LS協会】海上保安庁第8管区・メルマガ【BLUE SHIP】
- 7/21 京都府LS協会が地元キー局TVでe-LifesavingPR
- 7/23,24 海の日企画 ウェブセミナー
- 7/26 西条市子ども安全ウェブセミナー
- 7/31 朝日子供新聞記事掲載
- 8/1 スイミング教室・クラブでの公開授業@稲城 朝日新聞全国版カラー広告 朝刊
- 8/3 スイミング教室・クラブでの公開授業@堀之内 『海さくらチャンネル』より配信
- 8/5 日本臨床救急医学会にて発表
- 8/8 幼稚園保護者対象 オンラインセミナー実施
- 8/9 スイミング教室・クラブでの公開授業@八王子
- 8/10 スイミング教室・クラブでの公開授業@調布
- 8/13 オンラインセミナーの募集告知と川編公開をFBへ投稿
- 8/21 河川財団共催オンラインセミナー
- 8/22 オンラインセミナー実施とNHK取材記事シェアをFBへ投稿
- 8/23 e-Lifesavingの活用事例をFacebookへ投稿 スイミング教室・クラブでの公開授業@藤沢
- 8/24 e-Lifesaving<川編>公開告知 PR TIMESによるメディアリリース・河川財団様との共同リリース
- 8/26 e-Lifesaving<川編>公開告知 HP・FB・twitter・Instagram
- 9/26 日本子ども安全学会にて講演

10, e-Lifesaving に関連する活動⑥ JLA HP,Facebookより

【文部科学省 田野瀬副大臣を訪問】



自見はなこ議員のご紹介を賜り、文部科学副大臣 田野瀬太道議員と面会の機会をいただきました。冒頭、きっかけを作ってくださった一般社団法人吉川慎之介記念基金の吉川優子代表理事から、「水辺の事故予防については、子どもをはじめとし、指導者や大人への啓発も重要」との説明がなされました。続いて、JLA副理事長の松本貴行（教育担当、現役の保健体育教諭）より、学校教育における水辺の安全教育の現状と課題をお伝えし、これらを解決するためのICT教材であるe-Lifesavingの紹介をさせていただきました。田野瀬副大臣からは、e-Lifesavingの完成度に感嘆の声をいただき、文部科学省のホームページ内に水辺の安全教育に関するページ設定をしていきたいという声もいただきました。日本国内の学校教育の根幹を担う文部科学省との連携は、水辺の安全教育を広く国民に伝えていく上で必要不可欠です。JLAは今後とも同省との情報交換を強化し、水辺の事故ゼロをめざして参ります。

【スポーツ庁 室伏広治長官を訪問】



はじめに入谷理事長より、水辺の事故ゼロをめざして協会が活動している事業を紹介。続いて松本副理事長よりWEB教材『e-Lifesaving』を紹介し、スポーツ庁から積極的に『e-Lifesaving』活用の後押しがいただけるよう、お願いいたしました。室伏長官は身近に水の事故に遭われた方がいらしたそうで、水辺の安全について大変熱心に傾聴くださり、水辺の事故防止に有効なコンテンツであると評価をいただきました。海や川などの水辺から遠ざかるのではなく、どうすれば安全なのかを事前に知ることが重要なのだということに共感をいただき、ライフセーバーの活動へ熱いエールもいただきました。